平成２９年

消　防　年　報

立山町消防本部

表紙写真：布橋灌頂会

立山が女人禁制だった江戸時代に極楽往生を願う女性の救済のために営まれた儀式です　立山町芦峅寺にて３年に１度開催されており、平成２９年９月に開催されました

目　　次

立山町の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
消防吏員徽章 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
立山町の消防分布図及び消防機械配置図 3
管内人口動態 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
立山町消防のあゆみ ・・・・・・・・・・・・・・ 5～13

【総　務】
立山町消防組織図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
事務分掌 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15･16
消防施設の現況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
消防職員の定数･実員及び配置状況 ・・・・ 18
消防職員の階級別年齢状況 ・・・・・・・・・・・・19
消防職員の階級別在職年数状況 ・・・・・・・ 19
消防団員の階級別年齢状況 ・・・・・・・・・・・ 20
消防団員の階級別在職年数状況 ・・・・・・・ 20
消防職員の教養実施状況（過去5年間） ・・21
消防職員の特殊技能資格取得状況 ・・・・・ 21
消防予算の推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
消防予算と人口･世帯数との比較 ・・・・・・・ 22
平成29年度当初消防予算の概要 ・・・・・・・ 23
一般会計との比較 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
消防職員の勤務手当 ・・・・・・・・・・・・・・・・・24
消防団員の報酬･手当 ・・・・・・・・・・・・・・・ 24
平成29年中の活動内容 ・・・・・・・・・・・・・・・25

【消防警防】
消防機械配置状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
消防車両一覧表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
消防水利の現況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28

【通信指令】
高機能消防指令システム　運用イメージ ・・29
消防救急デジタル無線　システム構成図 ・・30
消防無線局一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
119番受信状況 ・・・・・・・・・・・・・・・ 32･33
年別通報受信状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34

【予防】
防火対象物状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
立入検査実施状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
用途別建築同意状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37

【安全】
危険物施設数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
火災予防条例による届出状況 ・・・・・・・・・ 38
危険物製造所等倍数別･類別状況 ・・・・・・ 39
危険物製造所等の申請処理数 ・・・・・・・・・ 40

【火災】
火災概況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
平成29年火災発生状況総括表 ・・・・・・・・ 41･42
月別火災発生状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43
過去10年間の地区別件数 ・・・・・・・・・・・・・・43
気象別火災発生状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・44
火元建物用途別の火災状況 ・・・・・・・・・・・・・44
出火時刻別火災発生状況 ・・・・・・・・・・・・・・45
過去10年間の火災発生状況 ・・・・・・・・・・・・・46
過去10年間の火災発生件数と損害額 ・・・・・・ 46
過去10年間の原因別出火件数 ・・・・・・・・・・・・47

【救急･救助】
救急概況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
事故種別出動件数･搬送人員状況 ・・・・・・・・・ 48
月別･事故種別救急活動状況 ・・・・・・・・・・・・ 49
時間別･事故種別救急活動状況 ・・・・・・・・・・・ 50
曜日別･事故種別救急活動状況 ・・・・・・・・・・・ 51
現場到着所要時間･事故種別出動件数 ・・・・・52
医療機関等収容所要時間･事故種別搬送人員 52
年齢区分別･傷病程度別搬送人員 ・・・・・・・・・ 53
居住地別･事故種別搬送人員 ・・・・・・・・・・・・ 53
収容医療機関別搬送人員 ・・・・・・・・・・・・・・ 54
過去10年間の救急状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・54
立山アルペンルート救急状況 ・・・・・・・・・・・・・55
事故種別出動件数･搬送人員 ・・・・・・・・・・・・ 55
月別･事故種別搬送人員 ・・・・・・・・・・・・・・・ 55
居住地別搬送人員 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55
過去10年間の救急状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・55
富山県ドクターヘリ要請状況 ・・・・・・・・・・・・・56
事故種別出動件数･搬送人員 ・・・・・・・・・・・・ 56
月別･事故種別搬送人員 ・・・・・・・・・・・・・・・56
居住地別搬送人員 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 56
ランデブーポイント数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・56
北陸自動車道救急状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 57
事故種別出動件数･搬送人員 ・・・・・・・・・・・・ 57
月別･事故種別搬送人員 ・・・・・・・・・・・・・・・ 57
居住地別搬送人員 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57
過去10年間の救急状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・57
富山市と立山町との消防相互応援協定 ・・・・・・ 58
救急隊員が行なった応急処置の状況 ・・・・・・・ 59
救助･捜索概況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60
平成29年救助･捜索出動及び活動状況 ・・・・ 60
過去3年間の救助･捜索出動及び活動状況 ・・60
消防団山岳救助協力隊の現況 ・・・・・・・・・・・・ 61
女性防火クラブの現況 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 61
幼年消防クラブの現況 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 61
少年消防クラブの現況 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 61

立　山　町　民　憲　章

霊峰立山に抱かれ、常願寺川の清流に育くまれるわたくしたち立山町民は
この誇りあるふるさとを愛し、力を合わせて、良い町づくりに努めます。

１．郷土を愛し　自然を守り　住みよい町づくりに努めます。

２．きまりを守り　あいさつをかわし　明るい地域づくりに努めます。

３．仕事に励み　奉仕の心で　豊かな社会づくりに努めます。

４．健やかで　笑顔で語らい　楽しい家づくりに努めます。

５．教養を高め　科学を重んじ　文化の町づくりに努めます。

はしがき

○　この年報は、当消防本部における平成２９年中の消防業務全般の状況を収録したものであり、今後の消防行政、施策の参考にするとともに、広く一般に紹介し、消防に対する理解を深めていただくことを目的として編集しました。

○　この年報については、表の上部等にそれぞれ記載した期日をもって作成してあります。

平成３０年１月

立山町消防本部

立　山　町　の　概　要

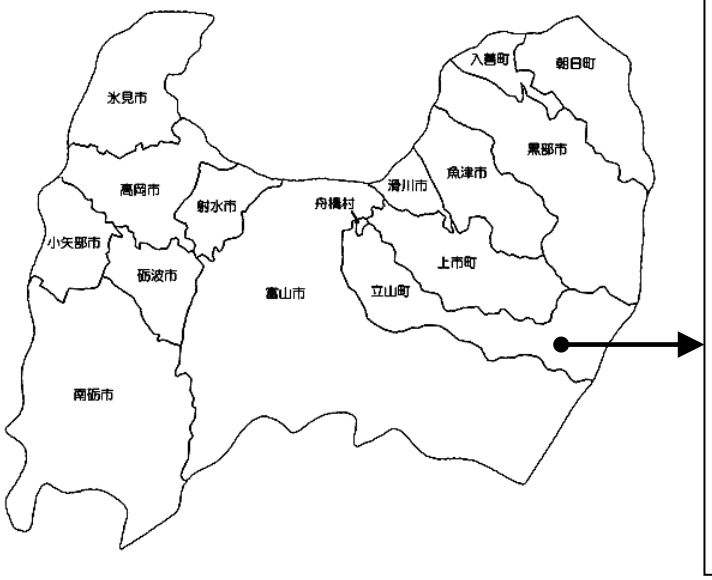
昭和２９年１月１０日、雄山町を中心に５ケ村（利田、上段、東谷、釜ヶ渕、立山）が合併し霊峰立山の名にちなんで立山町と命名して発足し、同年７月１０日、新川村の編入合併を経て今日にいたっている。

本町は、県都富山市から南東よりに位置し、北西部は、一級河川・常願寺川の扇状地であり水豊かな穀倉地帯である。これが、南東部へおよぶごとに標高が高まり特用林産物の生産地帯へと移行し、奥地は南北に連なる北アルプス立山連峰を形成している。

気候は、変化に富み、雨や雪が多く、湿度が高い。年間平均気温が１４度前後で風向きは、温暖期で南・南西、寒冷期で北東の季節風が多い。

反面、四季の移り変わりが鮮やかなのが特色である。

「人・自然・絆を大切にし、守りながら、みんなが輝く共生のまちづくりに努めます。」を基本理念とし、「健やかなまち『健康・快適』たてやま、活力のまち『田園・交流』たてやま、学びのまち『教育・文化』たてやま」を将来像に掲げ、この実現に向けて積極的な施策展開を図っている。



・位置　東経 137° 17′ ～ 137° 45′

北緯 36° 31′ ～ 36° 42′

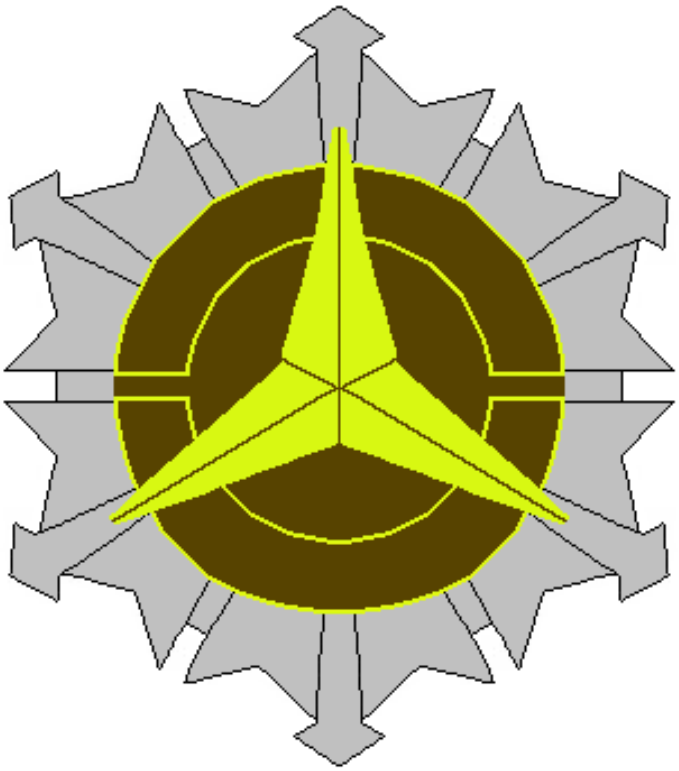
・面積　総面積　308.79ｋ㎡

・人口　２６，３４１人

（男 12,630 人・女 13,711 人）

・世帯数　９，４３０世帯

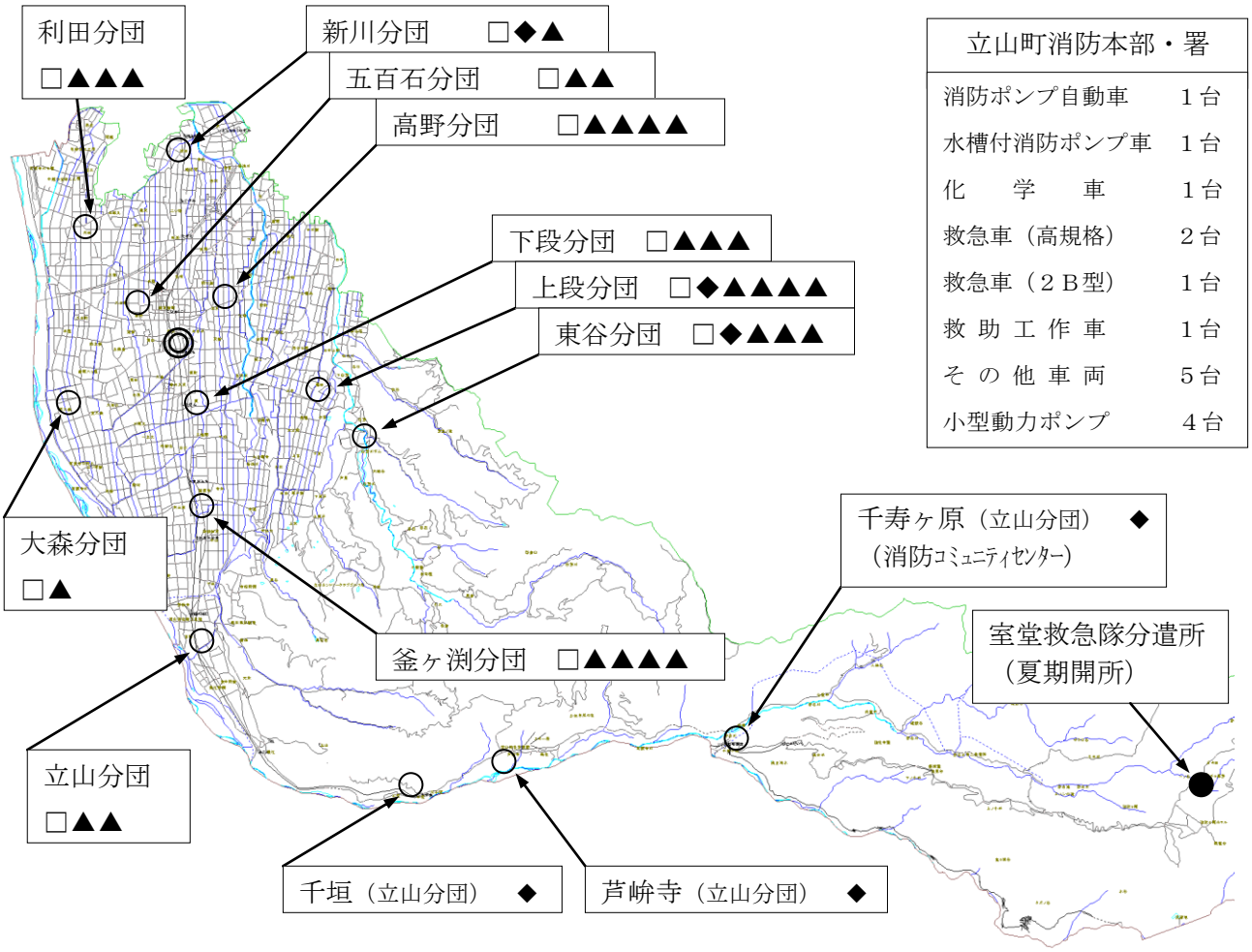
（平成 29 年 12 月 31 日現在）



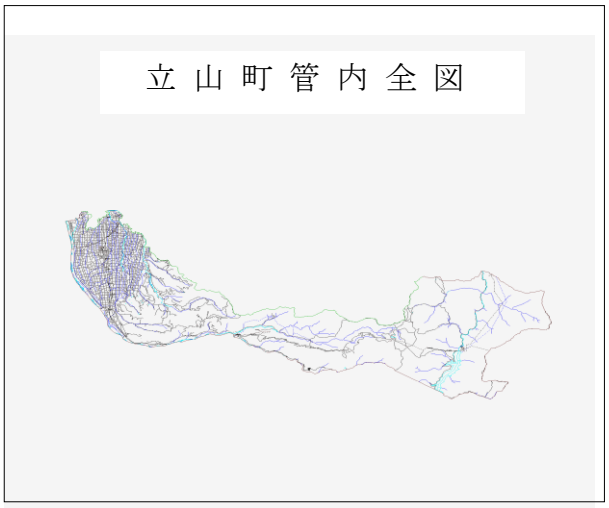
消 防 吏 員 徽 章

消防マークの中央に町章「立山」の文字を図案化したもので、外輪の丸は行政区域内の融和を意味し、立山の峰を表現する三角錘の合流点を頂点として三つの三角錘は野に山に町に力強く発展する町勢の姿を象徴している。

立山町の消防分布図及び消防機械配置図



立山町消防本部・署	
消防ポンプ自動車	1台
水槽付消防ポンプ車	1台
化　学　車	1台
救急車（高規格）	2台
救急車（２Ｂ型）	1台
救助工作車	1台
その他車両	5台
小型動力ポンプ	4台



記号の解説

◎　消防本部・署
●　分遣所
○　分団詰所・団員詰所
□　消防ポンプ自動車
◆　小型動力ポンプ付積載車
▲　小型動力ポンプ

◇管内人口動態

（平成29年12月31日現在）

区分／地区別	人口			世帯数
	男	女	計	
五百石	2,570	2,838	5,408	1,991
高野	1,304	1,484	2,788	1,054
上段	738	830	1,568	578
東谷	211	249	460	192
立山	1,088	1,240	2,328	893
釜ヶ渕	870	957	1,827	659
下段	1,475	1,528	3,003	1,027
大森	1,303	1,383	2,686	860
利田	1,550	1,553	3,103	1,040
新川	1,521	1,649	3,170	1,136
合計	12,630	13,711	26,341	9,430

※ 参考（各年度国勢調査による）

年度別	男	女	計	世帯数
昭和30年	14,749	14,847	29,596	5,575
昭和40年	13,720	14,166	27,886	5,861
昭和50年	13,178	14,048	27,226	6,446
昭和60年	13,509	14,432	27,941	6,846
平成 7年	13,132	14,312	27,444	7,762
平成12年	13,446	14,548	27,994	8,427
平成17年	13,422	14,589	28,011	8,830
平成22年	13,200	14,266	27,466	8,992
平成27年	12,663	13,654	26,317	9,159

立 山 町 消 防 の あ ゆ み

昭和	24年	12月	雄山町消防本部（署）を設置し、署員4名・車両1台で発足
	25年	12月	職員1名増員（総員5名）
	29年	1月	1町5ヶ村を合併し、立山町消防本部（署）設置。立山町消防団が9分団で発足
		1月	初代消防団長　菅原徳三氏就任
		7月	職員1名増員（総員6名）
		7月	新川村を編入合併し10分団となる
		8月	職員1名増員（総員7名）
	31年	4月	職員1名増員（総員8名）
		7月	立山町消防団を1団4分団に改編
		12月	職員2名増員（総員10名）
		12月	立山町消防署　東部、南部、北部分遣所を配置
		12月	初代消防署長　住松　實氏就任
	33年	8月	消防庁舎竣工（位置　立山町米沢7の2）
	34年	4月	職員3名増員（総員13名）
		12月	消防ポンプ自動車（トヨタ　BSー Ⅰ型）を購入
	37年	4月	職員1名増員（総員14名）
		7月	日中柴山婦人消防隊結成
		8月	第二代消防団長　高平公友氏就任
	38年	2月	雪害対策活動中2名殉職（消防司令長　戸田　光氏、消防副団長　林　正明氏）
		4月	第二代消防署長　塚本正生氏就任
		9月	職員1名増員（総員15名）
		12月	消防ポンプ自動車（トヨタ　BSー Ⅰ型）を購入
	40年	12月	南部分団立山班に消防ポンプ自動車（日産　BSー Ⅰ型）を配置
	41年	2月	立山町・大山町消防相互応援協定を締結
	42年	4月	指令車（日産　セドリック　ワゴン）を購入し、これをもって救急業務を開始
	43年	4月	第三代消防署長　信濃信義氏就任
		12月	中部分団五百石班に消防ポンプ自動車（いすゞ　BDー Ⅱ型）を配置
	44年	3月	富山県市町村消防相互応援協定を締結
		4月	職員2名増員（総員17名）
	45年	1月	第四代消防署長　浜田清一氏就任
		4月	職員2名増員（総員19名）
	46年	3月	日本自動車工業会より救急車（トヨタ　2B 型）が寄贈された
		3月	高原婦人消防隊結成
		4月	職員1名増員（総員20名）
		6月	政令により消防本部、消防署が設置された
		7月	職員1名増員（総員21名）

昭和　46年　7月　美女平分遣所を開設。県から救急車（トヨタ　ランドクルーザー）が貸与され
立山アルペンルートの救急業務を開始
10月　職員1名増員（総員22名）
47年　4月　職員1名増員（総員23名）
48年　4月　舟橋村救急業務を受託
6月　現消防庁舎落成（鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ2階建一部4階　816.72 ㎡）位置　立山町米沢36
8月　白岩婦人消防隊結成
10月　県下消防署消防操法大会で初優勝
11月　千垣婦人消防隊結成
12月　北部分団新川班に消防ポンプ自動車（トヨタ　BS－Ⅰ型）を配置
49年　6月　政令により救急業務の実施指定を受けた
8月　東部分団上段班に消防ポンプ自動車（日産　BS－Ⅰ型）を配置
10月　中部分団利田班に小型動力ポンプ積載車（日産）を配置
50年　3月　殉職職団員13回忌追悼式を営む
8月　東部分団東谷班に小型動力ポンプ積載車（トヨタ）を配置
8月　南部分団釜ヶ渕班に小型動力ポンプ積載車（トヨタ）を配置
8月　日本船舶振興会寄贈の小型動力ポンプ付積載車（トヨタ）を中部分団大森班に配置
51年　4月　消防団条例改正10名増の320名
9月　中部分団高野班に小型動力ポンプ積載車（トヨタ）を配置
9月　中部分団下段班に小型動力ポンプ積載車（トヨタ）を配置
9月　日本損害保険協会から消防ポンプ自動車（トヨタ　BD－Ⅰ型）が寄贈され署に配備
52年　2月　第五代消防署長　杉本圭介氏就任
53年　11月　重化学車（日野　Ⅲ型）を購入
54年　3月　宮路婦人消防隊結成
4月　職員2名増員（総員25名）
11月　指令車（日産　グロリア　ワゴン）を更新
55年　3月　日本損害保険協会から救急車（トヨタ　2B 型）が寄贈された
6月　立山町少年婦人防火委員会を設置
11月　消防ポンプ自動車(三菱ふそう　CD－Ⅱ型　署2号車）を購入
12月　北陸自動車道開通により消防救急業務を開始
12月　救急車（トヨタ　2B 型）を購入
56年　3月　芦峅寺婦人消防隊結成
4月　職員2名増員（総員27名）
4月　立山町消防団を1団10分団に改編
4月　栃津婦人消防隊結成
9月　消防庁舎車庫を増築（鉄骨造折板葺）　109．679㎡
10月　消防救急指令装置（消防庁 C 型）と救急復信無線電話局を設置
11月　南部分遣所落成（鉄骨造平屋建）　143．52㎡
57年　3月　立山地区スタンド協会から指令車（トヨタ　コロナ　バン）が寄贈された

昭和　57年　10月　利田分団詰所落成（鉄骨造平屋建）　80．82㎡
　　10月　東谷分団詰所落成（鉄骨造平屋建）　79．92㎡
　　11月　五百石分団の消防ポンプ（いすゞCD－Ⅱ型）を更新
　58年　 8月　日本船舶振興会より広報車（トヨタ　カリーナ　バン）が寄贈された
　　11月　防災行政無線電話装置を設置
　　12月　第三代消防団長　坂井昭二氏就任
　59年　 2月　釜ヶ渕分団詰所落成（鉄骨造平屋建）79．92㎡
　　 2月　大森分団詰所落成（鉄骨造平屋建）　80．46㎡
　　 2月　立山分団の消防ポンプ自動車（いすゞ　CD－Ⅱ型　4WD）を更新
　　10月　初代消防長　杉本圭介氏就任
　　10月　高野分団詰所落成（鉄骨造平屋建）　80．82㎡
　　11月　資器材搬送車を購入
　　12月　下段分団詰所落成（鉄筋コンクリート平屋建）　80．58㎡
　　12月　防災行政無線・高速ファクシミリ設置
　60年　 3月　殉職消防職団員23回忌追悼式を営む
　　 4月　第六代消防署長　村上賢二氏就任
　　 8月　日本消防協会から小型動力ポンプ積載車（日産）が寄贈され、芦峅詰所へ配置
　　11月　上段分団詰所落成（鉄骨造平屋建）　99．63㎡
　　11月　山之内製薬㈱から救急車（日産　2B型）が寄贈された
　61年　 3月　消防庁舎通信指令室増築（鉄骨造平屋建）　7．8㎡
　　11月　新川分団詰所落成（鉄骨造平屋建）　107．81㎡
　　12月　利田分団の小型動力ポンプ積載車（日産）を更新
　62年　 4月　第二代消防長　村上賢二氏就任
　　 4月　立山町婦人消防隊連合会設立
　　 6月　日本防火協会から防火広報車（いすゞ　ファーゴ）が寄贈された
　　12月　水槽付消防ポンプ自動車（水Ⅱ型）を購入
　63年　12月　日本損害保険協会から救急車（いすゞ　2B 型　4WD）が寄贈された
平成　 元年　 4月　第七代消防署長　林　善暉氏就任
　　 7月　条例改正で消防団員定数を323名とする（3名増員）
　　12月　救急車（トヨタ　2B 型　4WD）を更新
　 2年　 4月　条例改正により消防職員定数27名（実員27名）となる
　　 5月　立山町消防団山岳救助協力隊発足
　　 8月　総合気象観測装置を設置
　 3年　 1月　高野分団の小型動力ポンプ積載車（日産　4WD）を更新
　　 2月　新川分団の消防ポンプ自動車　（いすゞ　CD－Ⅰ型　4WD）を更新
　　 4月　条例改正により消防職員定数28名（実員28名）となる
　　 4月　第三代消防長　林　善暉氏就任
　　 7月　指令1号車　（トヨタ　クラウン　ワゴン）を更新

平成　3年　9月　日本損害保険協会から水槽付消防ポンプ自動車（いすゞ　Ｉ―B 型　火災保険号）が寄贈された
10月　釜ヶ渕地区婦人消防隊結成
10月　下段分団に消防ポンプ自動車（旧　署2号車）を配置
10月　千垣地区、新瀬戸地区に小型動力ポンプ付積載車を配置
12月　県防災行政無線を更新
12月　上段分団の消防ポンプ自動車　（いすゞ　CD－Ｉ型　4WD）を更新
12月　利田分団に消防ポンプ自動車（いすゞCD－Ｉ型4WD）を配置
4年　1月　高度情報通信ネットワークが完成
4月　条例改正により消防職員定数29名（実員29名）となる
10月　第8回全国婦人消防操法大会（横浜市）に、釜ヶ渕地区婦人消防隊が出場
12月　立山分団芦峅詰所落成（鉄骨造一部2階建）　98．85㎡
12月　消防署訓練塔落成（主塔・鉄骨造5階建、副塔・鉄骨造平屋建）
12月　東谷分団に消防ポンプ自動車（いすゞ　CD－Ｉ型　4WD）を配置
12月　釜ヶ渕分団に消防ポンプ自動車（いすゞ　CD－Ｉ型　4WD）を配置
5年　4月　第八代消防署長　坂井繁好氏就任
4月　富山県防災情報システムを運用開始
11月　大森分団に消防ポンプ自動車（いすゞ　CD－Ｉ型　4WD）を配置
11月　高野分団に消防ポンプ自動車（いすゞ　CD－Ｉ型　4WD）を配置
6年　4月　条例改正により消防職員定数30名（実員30名）となる
8月　日本消防協会から救急車（トヨタ　2B 型　4WD）が寄贈された
11月　コミュニティ消防センター（千寿ケ原）落成　165．17㎡
12月　ジープ型指令車（トヨタ　ランドクルーザー）を購入
7年　3月　殉職職団員33回忌追悼式を営む
4月　条例改正で消防団員定数を325名とする
5月　新活動服を採用（職員）
6月　消防団「団旗」を更新
10月　下段分団の消防ポンプ自動車（いすゞ　CD－Ｉ型　4WD）を更新
10月　五百石分団詰所落成（鉄骨造二階建）　138．15㎡
8年　2月　日本消防協会から「まとい」を受領
3月　高規格救急自動車（トヨタ　4WD）を購入
6月　五百石地区に地下埋設式100㎥耐震性貯水槽を設置
6月　消防広報車（スズキ　エスクード）を更新
10月　消防職員委員会が発足
11月　立山分団千垣詰所（鉄骨造二階建）を新築　78．3㎡
11月　初の救急救命士が誕生
9年　3月　立山町消防職員協議会結成
4月　新制服を採用（職員）
4月　3班3部制勤務を開始

平成　9年　11月　消防庁舎の耐震調査診断を実施
　　11月　2人目の救急救命士が誕生
　10年　3月　救助工作車（日野　Ⅱ型　4WD）を購入
　　10月　五百石分団の消防ポンプ自動車（いすゞ　CD－Ⅰ型　4WD）を更新
　　11月　3人目の救急救命士が誕生
　11年　4月　第四代消防長　坂井繁好氏就任
　　9月　立山分団の消防ポンプ自動車（いすゞ　CD－Ⅰ型　4WD）を更新
　　12月　第四代消防団長　舟橋幸甚氏就任
　　12月　消防緊急通信指令台（Ⅰ型）の更新
　12年　1月　防火衣（東消上下型）の更新
　　3月　望楼撤去及び消防無線専用鉄塔30Mを敷地内に設置
　　4月　第九代消防署長　古田精一郎氏就任
　　4月　4人目の救急救命士が誕生
　　10月　庁舎耐震補強工事完成
　　10月　第五代消防長　古田精一郎氏就任
　　11月　立山地区千垣集落に地下埋設式40㎥耐震性貯水槽設置
　　12月　5人目の救急救命士が誕生
　　12月　立山地区芦峅寺集落に小型動力ポンプ付積載車を配置
　13年　3月　山之内製薬(株)より高規格救急自動車（トヨタ　4WD）が寄贈され救急1号車として更新配備
　　4月　第十代消防署長　城戸辰雄氏就任
　　9月　消防活動用具乾燥設備を購入
　　11月　水槽付消防ポンプ自動車（三菱ふそう　水Ⅱ型　低床式　4WD)を購入
　　12月　6人目の救急救命士が誕生
　　12月　現場指揮車を購入　（トヨタ　4WD）
　14年　1月　東谷地区目桑集落に小型動力ポンプ付積載車を配置
　　7月　立山町室堂救急隊分遣所開設(立山町美女平分遣所廃止）
　　12月　東谷分団詰所を移転　（詰所改築、車庫新築）　189．9㎡
　15年　1月　立山地区千垣集落の小型動力ポンプ付積載車を更新
　　4月　第十一代消防署長　山林信男氏就任
　　4月　新活動服を採用（職員）
　　8月　環境　ISO　14001　取得（役場と協調）
　　8月　利田地区利田南台集落に地下埋設式40㎥耐震性貯水槽設置
　　12月　第五代消防団長　高平公嗣氏就任
　　12月　災害対応特殊化学消防ポンプ自動車（三菱ふそう　低床式　4WD)を更新
　16年　1月　新川地区女川新集落に小型動力ポンプ付積載車を配置
　　3月　南部分遣所廃止、立山分団詰所となる
　　4月　第十二代消防署長　荒木重光氏就任
　　4月　7人目の救急救命士が誕生（新規採用）

平成　16年　7月　新活動服を採用（団員）
8月　下段地区榎集落に地下埋設式40㎥耐震性貯水槽設置
8月　大森地区大清水集落に地下埋設式40㎥耐震性貯水槽設置
10月　庁舎防水工事施工
11月　8人目の救急救命士が誕生
17年　3月　救急自動車（トヨタ　2B 型　4WD)を救急3号車として更新
4月　新盛夏服を採用（職員）
6月　組織機構改革（役場と協調）
9月　携帯電話による119番通報　直接受信方式となる
11月　9人目の救急救命士が誕生
11月　上段地区新瀬戸集落の小型動力ポンプ付積載車（日産　4WD）を更新
12月　日中・柴山婦人消防隊が活動休止
12月　新川地区寺田集落に地下埋設式40㎥耐震性貯水槽設置
18年　6月　新盛夏服を採用（団員）
19年　4月　第六代消防長　荒木重光氏就任
4月　消防職員定数30名（実員29名）となる
5月　10人目の救急救命士が誕生
6月　薬剤追加講習に救急救命士を派遣養成
10月　消防大学校　消防団長科　高平団長入校
11月　釜ヶ渕地区道源寺集落に地下埋設式40㎥耐震性貯水槽設置
11月　泉集落に小型動力ポンプ置場新築
20年　4月　第十三代消防署長　薄田雅寛氏就任
9月　携帯型衛星電話機導入配備
10月　大森地区三塚新集落に地下埋設式40㎥耐震性貯水槽設置
21年　2月　デジタル無線の県内共通波電波伝搬調査実施
2月　日本消防協会から指揮広報車（スバル　レガシィ）が寄贈され指令1号車として更新配備
4月　薬剤追加講習に2人目救急救命士を派遣養成
7月　庁舎空調工事第1期完了
22年　1月　東谷地区目桑集落の小型動力ポンプ付積載車車庫改築
1月　消防署用除排雪機購入配備
1月　新川地区浦田2区集落に地下埋設式40㎥耐震性貯水槽設置
3月　新川分団の消防ポンプ自動車（日野　CD-I型　4WD）を更新
4月　第十四代消防署長　佐伯秋雄氏就任
4月　11人目の救急救命士が誕生（新規採用）
4月　12人目の救急救命士が誕生（新規採用）
5月　13人目の救急救命士が誕生
6月　消防署訓練用地として庁舎南側の貸借地1,120㎡を購入

平成　22年　8月　芦峅積載車を多機能型小型動力ポンプ積載車（国無償貸与）に更新
9月　携帯型 CO_2 監視モニター2台購入配備
9月　庁舎空調工事第2期完了
12月　消防署訓練塔主塔一部改修工事完了
12月　五百石地区五百石2区集落に地下埋設式40㎥耐震性貯水槽設置
23年　1月　都市型救助資器材購入配備
2月　利田分団の消防ポンプ自動車（日野　CD-I型　4WD）を更新
2月　東部広域消防任意運営協議会枠組みから正式離脱
3月　東日本大震災発生（地震・津波・原発事故の複合災害）
3月　緊急消防援助隊富山県隊として参加（消火隊を宮城県名取市に派遣）
3月　富山県消防協会中新川支部の発展的解散
3月　新規採用消防職員を1年間定数外職員とする条例可決
4月　第十五代消防署長　野村眞太郎氏就任
4月　富山県防災航空センターへ隊員1名を派遣（3年任期）
4月　新規採用職員3名採用（実員32名）
4月　薬剤追加講習に3人目救急救命士を派遣養成
7月　富山市と立山町との消防相互応援協定を締結
10月　上段地区日中柴山集落に地下埋設式40㎥耐震性貯水槽設置
10月　舟橋村の救急業務委託を1年間延長する契約を締結
11月　全消防団員へ冬季活動用防寒衣を貸与
12月　五百石分団詰所を草野地内に移転新築
12月　消防補償組合へ追加負担金を納入（東日本大震災関連）
12月　上段分団の消防ポンプ自動車（いすゞ　CD-I型　AT　4WD）を更新
12月　消防広報車（日産　エクストレイル　4WD）更新配備
24年　1月　殉職職団員50回忌追悼式を営む
2月　災害対応型特殊救急自動車（トヨタ高規格4WD）を購入し救急2号車として更新配備
4月　第十六代消防署長　古川信一氏就任
4月　新規採用職員1名採用（実員32名）
4月　薬剤追加講習に4人目救急救命士を派遣養成
5月　薬剤追加講習に5人目救急救命士を派遣養成
8月　消防団安全対策設備としてバルーン型夜間照明装備を各分団に配備
12月　釜ヶ渕分団の消防ポンプ自動車（いすゞ　CD-I型　AT　4WD）を更新
12月　白岩婦人消防隊が活動休止
25年　2月　宮路婦人消防隊が活動休止
3月　日中火の見櫓兼消防器具置場撤去。
3月　消防職員定数、条例改正で32名となる。
3月　富山県東部消防組合消防本部開所に伴い、舟橋村との救急業務委託契約（1年延長分）満了

平成　25年　4月　第十七代消防署長　荻生義明氏就任
4月　新規採用職員2名採用（実員33名）
4月　薬剤追加講習に6人目救急救命士を派遣養成
5月　14人目の救急救命士が誕生
5月　消防署小型動力ポンプ（4サイクル仕様）購入
6月　消防用ホース洗浄機購入（富山県消防団活動活性化補助金活用）
8月　災害対策用エアーテント購入（石油貯蔵施設立地対策等交付金活用）
9月　消防団員用カスタムベスト180着購入（コミュニティー助成事業活用）
10月　第七代消防長　荻生義明氏就任
10月　高速道路救急救助訓練（開催地・立山町）実施
10月　消防救急デジタル無線整備事業契約、着工
11月　東谷分団の消防ポンプ自動車（日野　CD－Ⅰ型　4WD）を更新
11月　消防指令車（指令2号車、日産　エクストレイル　4WD）更新配備
11月　アステラス製薬㈱から高規格救急自動車（トヨタ　4WD）が寄贈され救急1号車として更新配備
11月　消防団120年・自治体消防65周年記念大会参加
12月　災害対応特殊消防ポンプ自動車（日野　CD－Ⅰ型　CAFS付　4WD）更新配備
26年　1月　消防庁舎緊急避難所機能整備工事完成
1月　消防庁舎通信指令室増築工事完成
3月　消防庁舎緊急避難所機能整備工事（その2）完成
3月　高野地区（消防署敷地内）に地下埋設式40㎥耐震性貯水槽設置
3月　大森地区大日町集落に地下埋設式40㎥耐震性貯水槽設置
4月　第七代消防長　荻生義明氏就任（再任用）
4月　第十八代消防署長　金尾光保氏就任
4月　富山県防災航空センターへ隊員1名を派遣（3年任期）
4月　新規採用職員1名採用（実員32名）
4月　15人目の救急救命士が誕生（新規採用）
5月　16人目の救急救命士が誕生
9月　高機能通信指令システム試験運用開始
9月　大森分団消防ポンプ自動車（日野　CD－Ⅰ型　4WD）更新配備
11月　(財)日本損害保険協会から小型動力ポンプ付軽消防自動車（スズキ　4WD）が寄贈され東谷地区(目桑集落)の車両を更新。
目桑の小型ポンプ積載車を千寿ヶ原自主防災組織へ譲渡
12月　消防署南側駐車場舗装工事完成
12月　立山町消防救急デジタル無線整備工事竣工、運用開始
27年　3月　芦峅寺婦人消防隊が活動休止
4月　第七代消防長　荻生義明氏（再任用更新）
4月　第十九代消防署長　桂沢　誠氏就任
4月　17人目の救急救命士が誕生

平成　27年　6月　下段分団（日俣）小型動力ポンプ（4サイクル仕様）購入
6月　東谷地区四谷尾集落に地下埋設式40㎥耐震性貯水槽設置
9月　高野分団の消防ポンプ自動車（いすゞ　CD－Ⅰ型　4WD）を更新
9月　消防団水防活動用ライフジャケットを115着購入配備
11月　雪崩災害対策用資機材3セットを購入配備
12月　消防署員用防火衣（東消型）12着更新（石油立地対策等交付金活用）
28年　2月　栃津婦人消防隊が活動休止
2月　釜ヶ渕婦人消防隊が活動休止
3月　消防庁舎太陽光発電設備設置工事完了
3月　第五代消防団長　高平公嗣氏急逝。 副団長　田村　保氏が団長代行就任
4月　第八代消防長　桂沢　誠氏就任（第十九代消防署長　兼務）
4月　新規採用職員2名採用（実員33名）
4月　18人目の救急救命士が誕生（新規採用）
4月　立山町婦人消防隊連合会を解散し、立山町女性防火クラブを設立
5月　第六代消防団長　田村　保氏就任
5月　19人目の救急救命士が誕生
9月　高野分団詰所を江崎地内に移転新築
11月　第1回立山町消防フェスティバル2016開催（来場者470名）
11月　下段分団の消防ポンプ車（日野　CD－Ⅰ型　4WD）を更新
12月　大森分団詰所を東大森地内に移転新築
12月　日本消防協会から防災広報車（日産バネット）が寄贈され広報2号車として配備
12月　上段地区中林集落に地下埋設式40㎥耐震性貯水槽設置
29年　1月　消防資機材搬送車（トヨタ　4WD）を更新配備（石油立地対策等交付金活用）
3月　利田分団詰所を利田地内に移転新築
4月　立山町消防団応援の店事業を開始
4月　富山県防災航空センターへ隊員1名を派遣（3年任期）
5月　20人目の救急救命士が誕生
5月　糸魚川大規模火災現地視察を実施
6月　初の立山町女性消防団員を任用
7月　遭難対策用無線機を購入配備
10月　五百石地区旧休んでかれや跡地に地下埋設式40㎥耐震性貯水槽設置
12月　立山地区グリンパル吉峰駐車場内に地下埋設式40㎥耐震性貯水槽設置

総　務

写真：室堂平から眺める立山連峰
大汝山(標高 3,015m)　雄山(標高 3,003m)　富士ノ折立(標高 2,999m)
の三峰からなり、日本三霊山の一つであります

立 山 町 消 防 組 織 図

（平成29年12月31日現在）

消 防 職 員（吏員） 定数　32名　実員　31名

町長

消防本部

- 消防長
  - 消防次長
    - 総務課
      - 総務係
      - 消防警防係
      - 通信指令係
    - 安全課
      - 予防係
      - 安全係
      - 救急救助係

消防署

- 消防署長
  - 消防署長代理
    - 消防署長補佐（兼消防本部係長）
      - 総務係
      - 消防警防係
      - 通信指令係
      - 予防係
      - 安全係
      - 救急救助係

室堂救急隊分遣所

消 防 団 員　定数　325名　実員　316名

消 防 団

- 消防団長
  - 消防副団長（2名）
    - 上段分団
    - 高野分団
    - 立山分団（山岳救助協力隊14名含む）
    - 釜ヶ渕分団
    - 東谷分団
    - 利田分団
    - 下段分団
    - 大森分団
    - 五百石分団
    - 新川分団
  - 女性団員（6名）※団本部付け

事　務　分　掌

消防本部(署)

総 務 係
1. 職員の人事に関すること。
2. 予算及び決算に関すること。
3. 条例及び規則等に関すること。
4. 消防長会に関すること。
5. 補助金等の事務に関すること。
6. 職員の教養及び福利厚生に関すること。
7. 文書の収発に関すること。
8. 他の係の主掌に属しないこと。
9. 物品の購入及び施設造営物の取得に関すること。
10. 各種儀式、会議に関すること。
11. 他の分掌に属しないこと。

消防警防係
1. 消防団の人事及び表彰に関すること。
2. 市町村消防補償組合に関すること。
3. 消防協会に関すること。
4. 消防防災計画に関すること。
5. 緊急消防援助隊に関すること。
6. 消防団幹部会に関すること。
7. 消防広報及び火災予防宣伝に関すること。
8. 警戒防御に関すること。
9. 退職職団員に関すること。
10. 消防車両及び機械器具の点検整備及び安全管理等に関すること。
11. 開発行為に伴う消防水利の整備に関すること。
12. 消火栓及び防火水槽等の調査点検整備に関すること。
13. 消防用ホースの管理保全に関すること。
14. 消防用燃料及びその他の油脂類に関すること。

通信指令係　　1．消防通信の管理に関すること。
2．消防通信施設の維持管理に関すること。
3．災害支援情報等の管理に関すること。
4．消防気象情報に関すること。
5．火災・救急・救助その他災害出動の指令運用に関すること。
6．消防・救急無線及び防災行政無線の運用に関すること。
7．災害支援情報等の運用に関すること。
8．消防情報、統計、資料の収集及び年報作成に関すること。
9．道路の通行制限に関すること。

予　防　係　　1．建築物の確認同意事務に関すること。
2．消防用設備の設置指導及び検査に関すること。
3．消防設備士の育成指導に関すること。
4．防火管理者の育成指導に関すること。
5．防火査察及び立入検査に関すること。
6．一人暮らし老人に関すること。
7．避難訓練（書類管理）に関すること。
8．火災原因調査及び損害調査に関すること。

安　全　係　　1．危険物、消防活動阻害物質及び指定可燃物に関すること。
2．危険物取扱者及び保安監督者の育成指導に関すること。
3．液化石油ガス、高圧ガス及び火薬類等の規制に関すること。
4．危険物安全協会に関すること。

救急救助係　　1．救急業務、救助業務及び救急救命士に関すること。
2．高速道路及び立山アルペンルートに関すること。
3．職員及び団員の訓練に関すること。
4．応急手当の普及啓発に関すること。
5．救急器具装備に関すること。
6．消防操法の指導に関すること。
7．救助訓練に関すること。
8．救助器具装備に関すること。
9．幼少年、女性防火等の民間防火団体の育成指導に関すること。
10．防火作品の募集に関すること。
11．自主防災組織訓練、避難訓練（現地指導）に関すること。

◇消防施設の現況

（平成29年12月31日現在）

施設名	所在地	電話番号	敷地面積（㎡）	建築延面積（㎡）	構造	竣工年月日	建築費（千円）	備考
立山町消防本部（立山町消防署）	米沢36	463-0005 FAX 463-1610	4,722.39	922.25	鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造2階建	S.48. 6. 7	消防庁舎（総工費） 50,156	
					鉄骨造折版葺	S.56. 9.30	車庫（増築） 11,950	
						S.61. 3.28	通信指令室（増築） 3,130	
						H.12.10.27	消防庁舎耐震補強工事 13,230	
						H.26. 3.24	通信指令室（増築） 31,433	
						H.26. 3.24	緊急避難所機能整備工事 26,072	
訓練塔	米沢36	―	47.44	主塔168.00 副塔 31.20	鉄骨造5階建 17M 鉄骨造平屋建 7M	H. 4.11.27	33,887	
室堂救急隊分遣所	芦峅寺ブナ坂	463-5519	（立山センター内）					
五百石分団詰所	草野95番1	463-5811	231.68	153.05	木造平屋建鋼板葺	H.23.11.30	総工事費 25,049	
高野分団詰所	江崎9番1	462-2170	497.04	144.19	木造平屋建鋼板葺	H.28.8.31	総工事費 49,088	
上段分団詰所	福田621	463-0424	287.63 （借地）	99.63	鉄骨造平屋建折版葺	S.60.11.30	総工事費 12,300	
東谷分団詰所	白岩12	463-2440	542.30	153.90 車庫36.00	補強コンクリートブロック造平屋建 鉄骨造平屋建折版葺	H.14. 9.30	総工事費 19,267	
立山分団詰所	宮路10－2	483-0300	510.00	143.52	鉄骨造平屋建折版葺	S.56.11. 9	総工事費 21,298	
釜ヶ渕分団詰所	道源寺934－8	463-2894	399.94 （借地）	79.92	鉄骨造平屋建折版葺	S.59. 2.29	総工事費 11,345	
下段分団詰所	榎43	463-3251	1,537.18 （公民館と共同）	80.58	鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造平屋建 （公民館併設）	S.59.12.20	総工事費 9,999	
大森分団詰所	東大森420番2	463-2464	856.19	145.75	木造平屋建鋼板葺	H.28.10.31	総工事費 49,934	
利田分団詰所	利田1081－2	463-3229	507.00	146.33	木造平屋建鋼板葺	H.29.3.15	総工事費 46,856	
新川分団詰所	浦田408－4	464-1054	807.77	107.81	鉄骨造平屋建折版葺	S.61.11.20	総工事費 14,580	
立山分団芦峅詰所	芦峅寺10－1	―	138.40 （借地）	98.85	鉄骨造一部2階建ｶﾗｰ 鉄板瓦棒葺	H. 4.12. 3	総工事費 16,304	
立山分団千垣詰所	千垣311－1	―	78.61 （借地）	78.30	鉄骨造2階建折版葺	H. 8.11. 6	総工事費 12,051	
千寿ケ原ｺﾐｭﾆﾃｨｰ消防センター	芦峅寺ブナ坂50-3	482-1010	291.10	165.17	鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造平屋建	H. 6.11.25	総工事費 30,174	

◇消防職員の定数・実員及び配置状況

	定　数	実　員
消防職員	32	31

消防職員1名に対する面積　　9．96　㎢

〃　　人口　　850　人

〃　　世帯数　　304　世帯

（平成29年12月31日現在）

所属＼階級		消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	計
消防本部・署	消防長（消防署長）	1						1
	消防次長・安全課長（消防署長代理）		1					1
	総務課長（消防署長代理）		1					1
	総務係		2	1	1		1	5
	消防警防係		1	1	1		2	5
	通信指令係		1	1			1	3
	予防係		1	1	1		2	5
	安全係		1	1	1			3
	救急救助係		2	1	1		3	7
計		1	10	6	5		9	31
富山県防災航空センター（派遣）					1			1

※富山県防災航空センター（派遣）1名は、条例定数外扱いの職員としています。

◇消防職員の階級別年齢状況

（平成29年12月31日現在）

階級／年令	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	計
２０才未満							0
２０才～２４才						3	3
２５才～２９才						6	6
３０才～３４才				2			2
３５才～３９才			1	3			4
４０才～４４才		2	5				7
４５才～４９才		3					3
５０才～５４才		4					4
５５才以上	1	1					2
計	1	10	6	5	0	9	31

◇消防職員の階級別在職年数状況

（平成29年12月31日現在）

階級／年数	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	計
１年未満							0
１年～４年						4	4
５年～９年				4		5	9
１０年～１４年			1	1			2
１５年～１９年			3				3
２０年～２４年			2				2
２５年～２９年		4					4
３０年以上	1	6					7
計	1	10	6	5	0	9	31

◇消防団員の階級別年齢状況

（平成29年12月31日現在）

階級／年令	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	計
２０才未満								0
２０才～２４才							2	2
２５才～２９才							5	5
３０才～３４才						1	14	15
３５才～３９才					1	3	45	49
４０才～４４才					1	11	52	64
４５才～４９才					4	17	42	63
５０才～５４才			1	1	8	14	16	40
５５才～５９才			1	2	16	13	12	44
６０才～６４才		1	4	7	3	3	4	22
６５才以上	1	1	4	1	2	1	2	12
計	1	2	10	11	35	63	194	316

◇消防団員の階級別在職年数状況

（平成29年12月31日現在）

階級／年数	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	計
１年未満							20	20
１年～４年							63	63
５年～９年						4	56	60
１０年～１４年						24	31	55
１５年～１９年			1		7	19	20	47
２０年～２４年				3	15	9	2	29
２５年～２９年			4	4	10	6	1	25
３０年以上	1	2	5	4	3	1	1	17
計	1	2	10	11	35	63	194	316

◇消防職員の教養実施状況(過去5年間)

（平成29年12月31日現在）

区分 ＼ 年度		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	計
富山県消防学校	初任科	1	2	1		2		6
	危険物科		1					1
	火災調査科		1		1			2
	予防査察科			1		1		2
	機関員養成講習		1		1		1	3
	救急科(標準課程)	1	2					3
	2処置追加講習				4	4		8
	救助科	1	1				1	3
	初級幹部科	1		1		1		3
	中級幹部科							0
	上級幹部科							0
	特殊災害科			1		1		2
	警防科	1	1	1		1	1	5
	ドローン講習					2		2
救急振興財団	救急救命東京研修所	1	1	1	1	1	1	6
	救急救命九州研修所							0

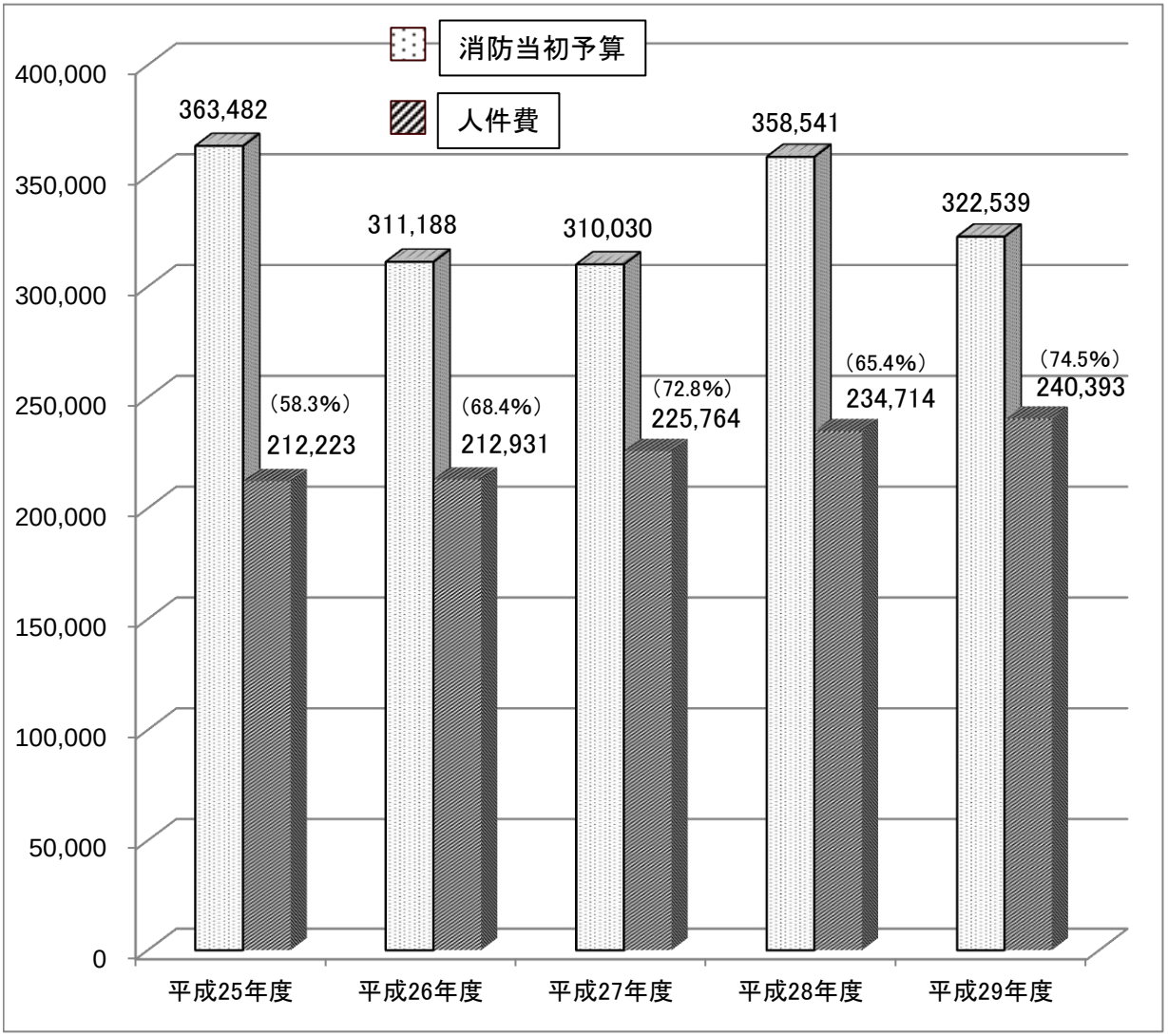
◇消防職員の特殊技能資格取得状況

（平成29年12月31日現在）

資格種別	人数
大型自動車	24
大型特殊自動車	1
危険物取扱者(甲)	1
危険物取扱者(乙)	21
特殊無線技師	32
アマチュア無線資格	4
消防設備士(甲)	2
消防設備士(乙)	5

資格種別	人数
小型移動式クレーン	26
玉掛技能資格	28
小型船舶2級	8
小型船舶特殊	4
予防技術資格者	15
2級自動車整備士	1
小型車両系建設機械	9

◇消防当初予算の推移　　（単位：千円）



※　パーセンテージについては、消防当初予算に対する人件費の割合を示しています。

◇消防当初予算と人口・世帯数との比較

（平成29年4月1日現在）

区分／年度	消防当初予算（千円）	人口（人）	人口1人当りの消防予算（円）	世帯数（世帯）	1世帯当りの消防予算（円）
平成２５年	363,482	27,399	13,266	9,157	39,694
平成２６年	311,188	27,126	11,471	9,204	33,810
平成２７年	310,030	26,875	11,536	9,276	33,422
平成２８年	358,541	26,660	13,448	9,297	38,565
平成２９年	322,539	26,497	12,172	9,369	34,426

◇平成29年度当初消防予算の概要

（単位:千円）

	常備消防費	非常備消防費	施設費	合計
報酬		8,172		8,172
給料	118,443			118,443
職員手当等	83,420			83,420
共済費	38,530			38,530
災害補償費				0
賃金	781			781
報償費	130	247		377
旅費	495	6,736		7,231
交際費	78	130		208
需用費	7,559	3,924	666	12,149
役務費	4,884	1,907	9	6,800
委託料	19,341		1,159	20,500
使用料及び賃借料	764	191		955
工事請負費			6,500	6,500
備品購入費	432	1,455	2,797	4,684
負担金補助及び交付金	2,599	8,958	1,600	13,157
公課費	396	236		632
合計	277,852	31,956	12,731	322,539

◇一般会計との比較

（単位：千円）

区分＼年度	平成２８年度					平成29年度
	当初予算額	補正予算額	継続費	予備費	最終予算額	当初予算額
町一般会計予算	10,826,000	1,453,443	505,677	0	12,785,120	10,844,000
消防予算額	358,541	127,556	42,431	2,135	530,663	322,539
			一般会計予算との比		4.1%	2.9%

◇消防職員の勤務手当

（平成29年12月31日現在）

手当別	単位	金額
休日勤務手当	時間	135／100 × 実働時間
夜間勤務手当	1日	25／100 × 2時間
火災・救助出動手当	1回	300円
救急出動手当	1回	200円 （救急救命士 400円）
当務者仮眠時間中災害出動手当	時間	22:00～5:00まで 150/100×実働時間
室堂救急隊分遣所 緊急出動手当	1日	2，000円

◇消防団員の報酬・手当

（平成29年12月31日現在）（単位：円）

手当別＼区分		階級別支給額						
		団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員
職務報酬	年額	92,000	68,000	52,000	39,000	29,000	24,000	22,000
出場・警戒訓練手当	年額	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000
機関員手当	年額	1人当たり 38,400						

◇平成29年中の活動内容

月	日	行　　事
1	7	消防出初め式
	22	(文化財防火デーに伴う)雄山神社消防訓練
2	5	糸魚川市大規模火災現地視察(富山県消防課企画)
3	18	富山県消防定例表彰式
	19	夜間消防業務訓練
	20 ～ 26	春の火災予防運動
4	1	任命交付式
	2	利田分団詰所竣工式
	10 ～ 21	防火対象物立入検査
	22	立山町女性防火クラブ総会
5	18	給油取扱所(セルフスタンド)に対する立入検査
	26	立山町消防団員研修
	31	糸魚川市大規模火災現地視察(立山町・消防署・消防団合同)
6	6	富山県下消防救助技術大会(第41回陸上の部)
	8	下中新川地区危険物安全協会地区別講習会
	13	外国語研修会
	13 ～ 21	アルペンルート周辺　防火対象物立入検査
	25	第52回立山町消防団消防操法大会
	29	立山町消防交友会総会
7	15	室堂救急隊分遣所開所
	22	第68回富山県下消防団消防操法大会
	24 ～ 31	立山山岳地帯　防火対象物立入検査
	30	立山町消防団山岳救助協力隊総会
8	19	立山町消防団員防災研修会
	31	建築物防災査察
9	1	防災の日・立山町女性防火クラブ連絡協議会研修会
	29	立山室堂地区安全対策連絡協議会火山ガス安全対策救急救助訓練
	30	富山県総合防災訓練
10	2 ～ 6	「社会に学ぶ“14歳の挑戦”」
	10	室堂救急隊分遣所閉所
	12	富山県消防防災ヘリコプター座学講座
	12	水難救助訓練
	15	富山県消防協会中新川地区合同秋季訓練及び操法大会(消防団)
	19	建築パトロール
	22	女性防火クラブ視察研修
	23	立山町消防職員委員会
	23	富山県消防防災ヘリコプター運行連絡協議会総会
	25	下中新川地区危険物安全協会防災講演会
	31	富山県下警防技術交換会
11	1 ～ 20	防火対象物立入検査
	9 ～ 15	秋の火災予防運動
	12	立山町消防フェスティバル
	16	危険物運搬車両街頭取締り業務分担
	16 、 17	全国女性消防団員活性化広島大会
	18	第63回富山県小学生火災予防研究発表大会
	21	第37回富山県下消防職員意見発表会
	27 ～ 29	危険物移動タンク貯蔵所及び危険物給油取扱所に対する立入検査
	29	富山県下救急隊員研修会
12	3	女性消防団員連絡協議会研修会
	12	全国消防長会東近畿支部消防技術研修会
	21 ～ 27	歳末消防通常警戒
	28	幹部巡視
	28 ～ 31	歳末消防特別警戒

消防警防

写真：立山ロープウェイ
途中に支柱が１本も設けられていないワンスパン方式を採用しているのが大きな特徴で、ワンスパン方式としては日本最長です

◇消防機械配置状況

（平成29年12月31日現在）

車種別 ＼ 所属別		ポンプ車			救急車及びその他の車							
		普通消防ポンプ自動車	水槽付消防ポンプ自動車	化学消防ポンプ自動車（災害対応）	救急車（高規格）	救急車（２Ｂ型）	救助工作車（Ⅱ型）	指令車	現場指揮車	広報車	小型動力ポンプ付積載車	その他（資機材搬送車）
常備	消防署	1	1	1	2	1	1	1	1	2	1	1
小計		1	1	1	2	1	1	1	1	2	1	1
非常備	上段分団	1									1	
	東谷分団	1									1	
	利田分団	1										
	下段分団	1										
	大森分団	1										
	新川分団	1									1	
	高野分団	1										
	五百石分団	1										
	立山分団	1									2	
	釜ヶ渕分団	1										
小計		10									5	
合計		11	1	1	2	1	1	1	1	2	6	1

◇消防車両一覧表

（平成29年12月31日現在）

項目 / 車両	車両メーカー	登録年月日	艤装、種別、級別等	配置場所
ポンプ車	日野	H25. 12. 9	モリタ A－2 CAFS	消防本部・（署）
水槽車	三菱ふそう	H13. 11. 15	モリタ A－2 2段	
化学車	三菱ふそう	H15. 12. 3	モリタ A－2 2段	
救助工作車	日野	H10. 3. 5	モリタ Ⅱ型	
救急車	トヨタ	H25. 11. 20	トヨタ 高規格	
救急車	トヨタ	H24. 2. 17	トヨタ 高規格	
救急車	トヨタ	H17. 3. 16	トヨタ 2B型	
指令車	日産	H25. 11. 14		
広報車	日産	H23. 12. 16		
広報車	日産	H28. 12. 1		
現場指揮車	トヨタ	H13. 12. 19		
資材搬送車	日野	H29. 1. 31		
千寿ヶ原積載車	ダイハツ	H13. 12. 17		
上段分団車	いすゞ	H23. 11. 21	モリタ A－2 2段	上段
東谷分団車	日野	H25. 10. 21	モリタ A－2 2段	東谷
利田分団車	日野	H23. 2. 10	モリタ A－2 2段	利田
下段分団車	日野	H28. 11. 18	モリタ A－2 2段	下段
大森分団車	日野	H26. 9. 12	モリタ A－2 2段	大森
新川分団車	日野	H22. 2. 12	モリタ A－2 2段	新川
高野分団車	いすゞ	H27. 9. 28	モリタ A－2 2段	高野
五百石分団車	いすゞ	H10. 9. 25	モリタ A－2 2段	五百石
立山分団車	いすゞ	H11. 9. 22	モリタ A－2 2段	立山
釜ヶ渕分団車	いすゞ	H24. 11. 19	モリタ A－2 2段	釜ヶ渕
新瀬戸積載車	トヨタ	H17. 11. 18		新瀬戸
目桑積載車	スズキ	H26. 11. 19		目桑
女川新積載車	ダイハツ	H15. 12. 17		女川新
千垣積載車	三菱	H14. 12. 25		千垣
芦峅積載車	いすゞ	H22. 7. 22		芦峅

◇消防水利の現況

（平成29年12月31日現在）

現　有　消　防　水　利

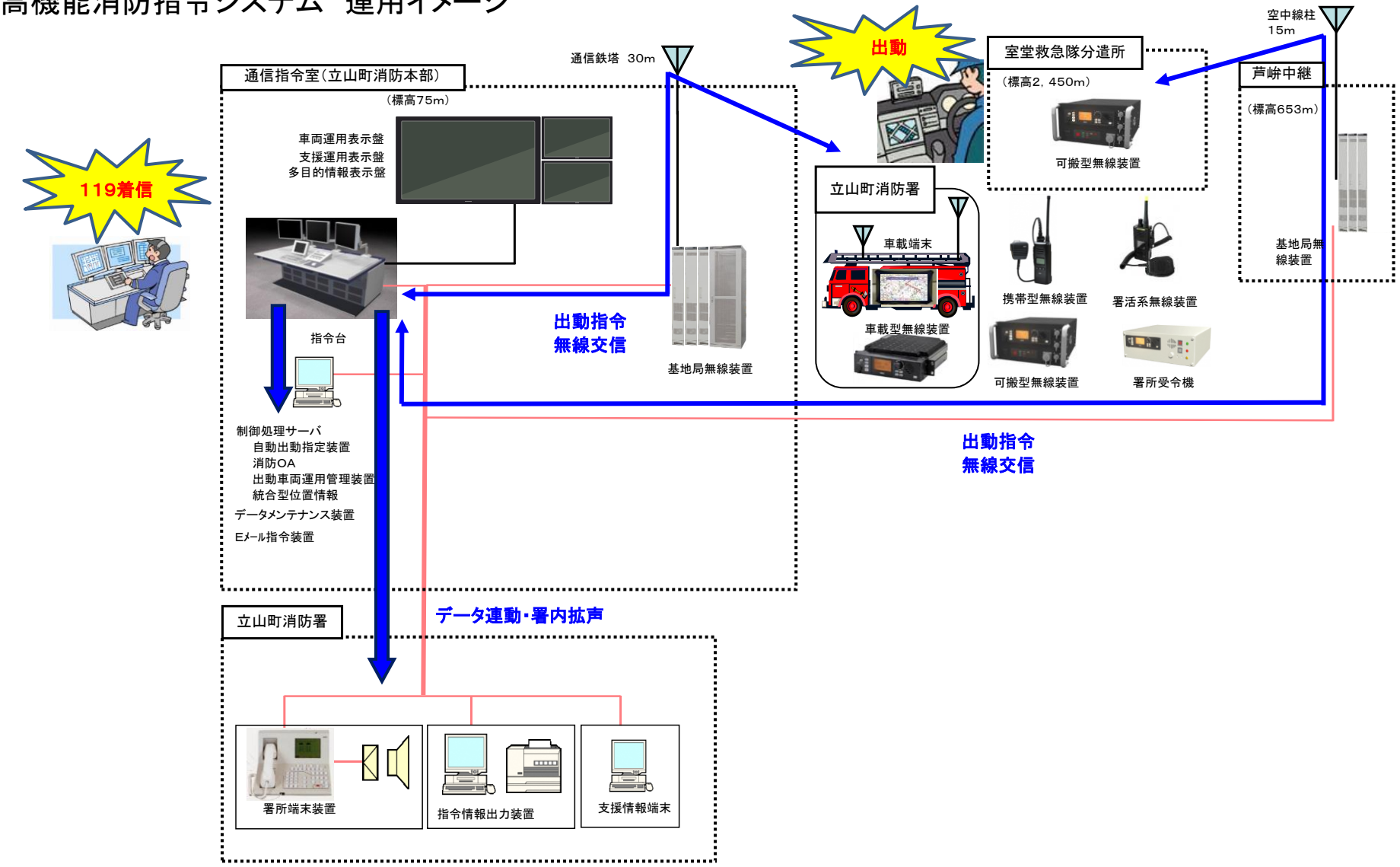
種別／地区	消火栓			防火水槽				プール	計
	公設		私設	公設		私設			
	地上式	地下式		有蓋	無蓋	有蓋	無蓋		
上段	1	42		8		1		2	54
東谷	1	25		7	8				41
利田		54	1	2				1	58
下段	1	68		5					74
大森		55		8					63
新川		83	4	4	1			1	93
高野	1	61		3		1		1	67
五百石		107	2	8				1	118
立山	37	90		6	4	1			138
釜ヶ渕	1	28		3				1	33
計	42	613	7	54	13	3		7	739
				67		3			

通信指令

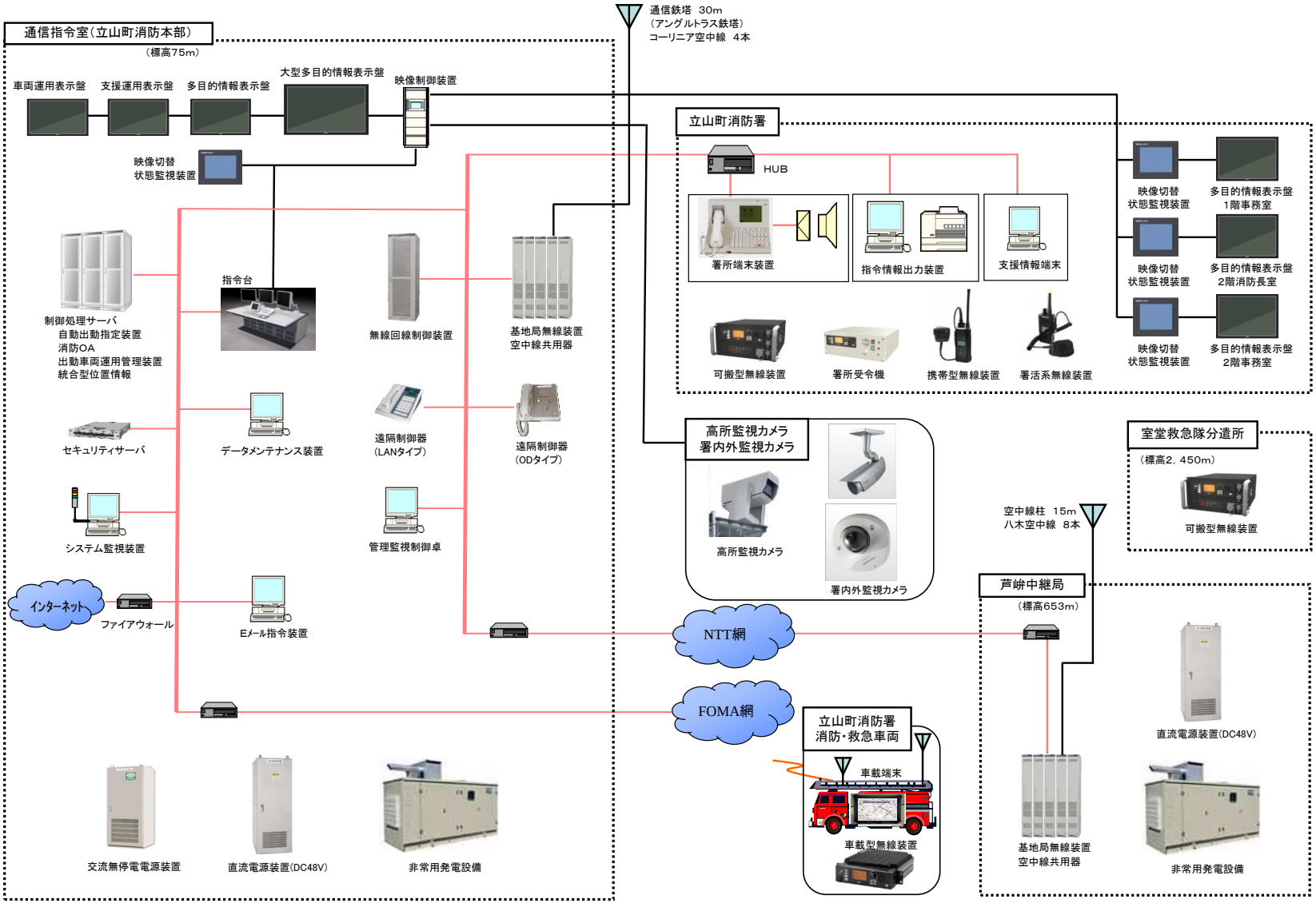
写真：雪の大谷

標高2,450ｍに位置にあり、最大２０ｍの高さを超えることもある雪の壁です　　平成２９年は、１９ｍの高さがありました

高機能消防指令システム　運用イメージ



高機能消防指令システム・消防救急デジタル無線　システム構成図



消 防 無 線 局

◇電波の型式

活動波

（1）活動波1ch

（2）活動波2ch

共通波

（3）統制波1ch

（4）統制波2ch

（5）統制波3ch

（6）主運用波1ch（他県）

（7）主運用波2ch（他県）

（8）主運用波3ch（他県）

（9）主運用波4ch（他県）

（10）主運用波5ch（富山県波）

（11）主運用波6ch（他県）

（12）主運用波7ch（他県）

◇無線局数

（平成29年12月31日現在）

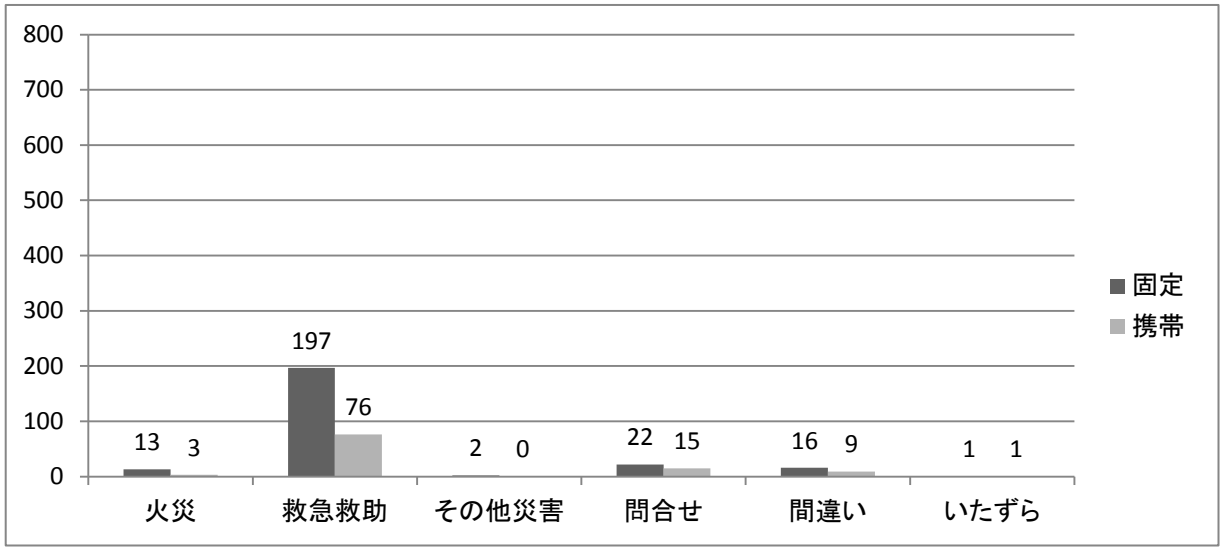
	デジタル無線						アナログ無線			
局種別	基地局		陸上移動局				陸上移動局			
	本部	芦峅中継	車載（本部）	車載（分団）	可搬	携帯	署活動系無線	防災相互波	山岳遭難対策用無線	
									車載	携帯
空中線電力	10W	20W	10W	10W	5W	2W	1W	10W	5W	1W
局数	1	1	12	10	2	20	10	12	1	2
合計	2		44				25			

※消防救急デジタル無線は、緊急消防援助隊等の活動時に他県で使用している主運用波も使用できるように整備することと消防庁から指示があり、移動局（車載、可搬、携帯）には全て実装しています。

固定電話（加入・IP）、携帯電話からの１１９番受信状況

◇通報種別件数 （グラフは「その他」を除く）

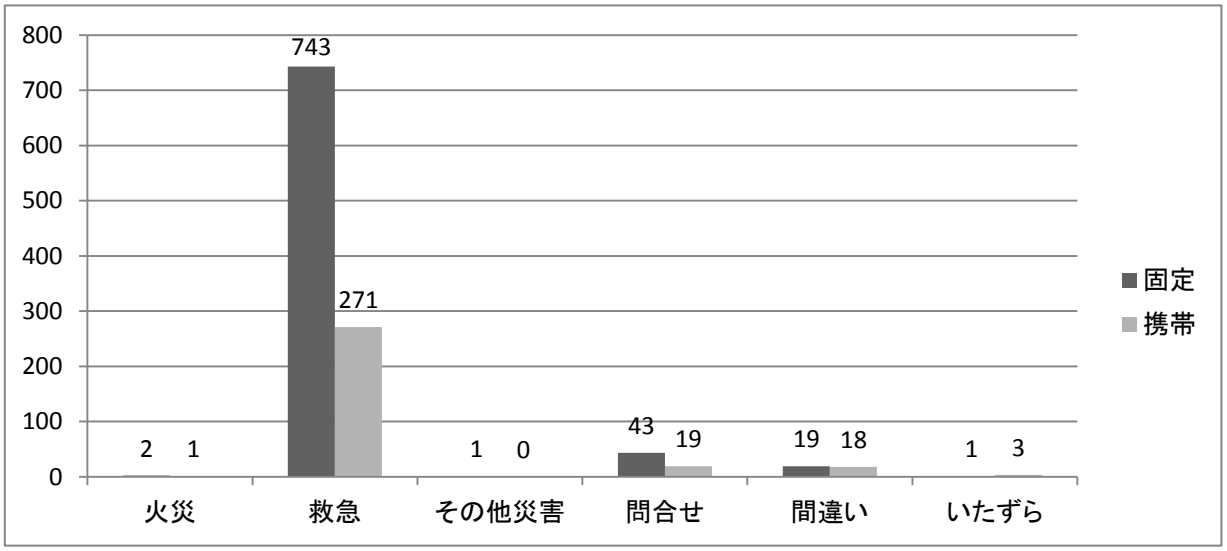
（平成26年9月～12月）



	火災	救急救助	その他災害	問合せ	間違い	いたずら	合計
固定	13	197	2	22	16	1	251
携帯	3	76	0	15	9	1	104

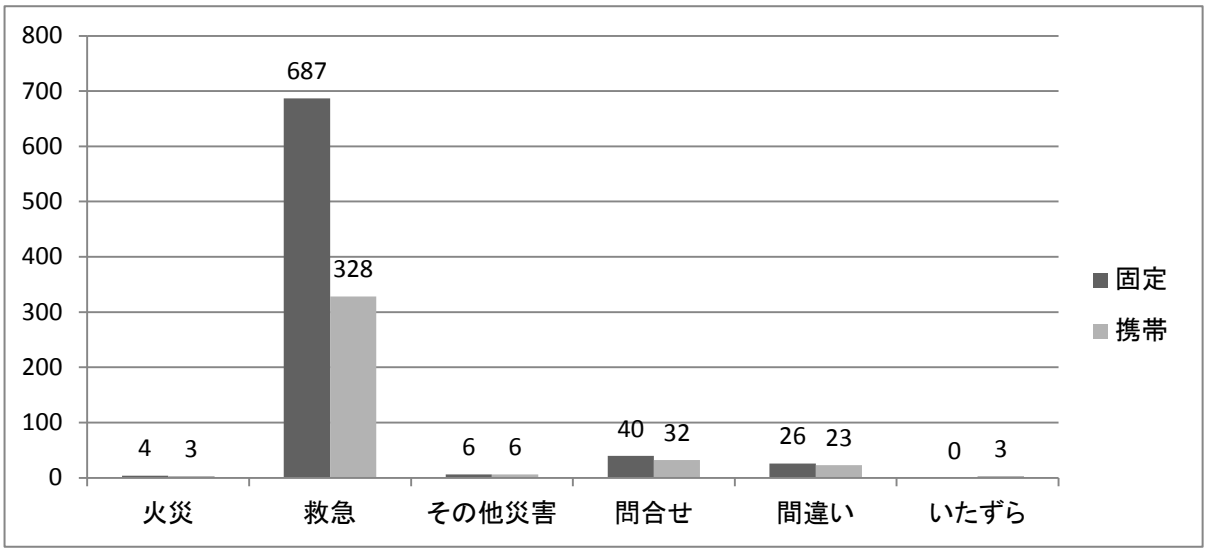
※平成26年9月から11月までは試験運用期間です。実運用は12月からとなります。

（平成27年1月～12月）



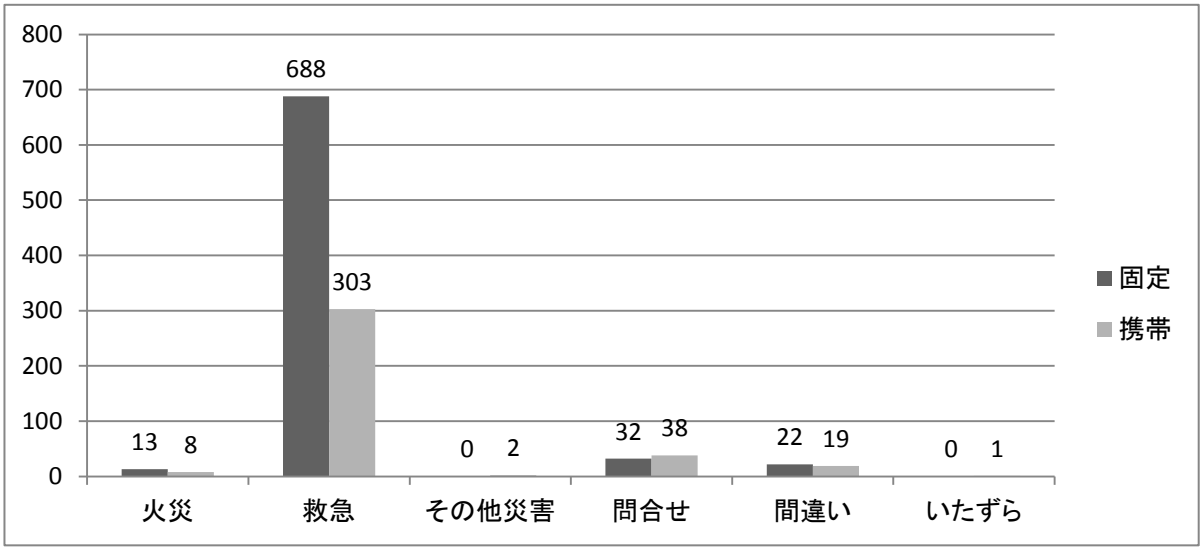
	火災	救急	その他災害	問合せ	間違い	いたずら	合計
固定	2	743	1	43	19	1	809
携帯	1	271	0	19	18	3	312

（平成28年1月～12月）



	火災	救急	その他災害	問合せ	間違い	いたずら	合計
固定	4	687	6	40	26	0	763
携帯	3	328	6	32	23	3	395

（平成29年1月～12月）



	火災	救急	その他災害	問合せ	間違い	いたずら	合計
固定	13	688	0	32	22	0	755
携帯	8	303	2	38	19	1	371

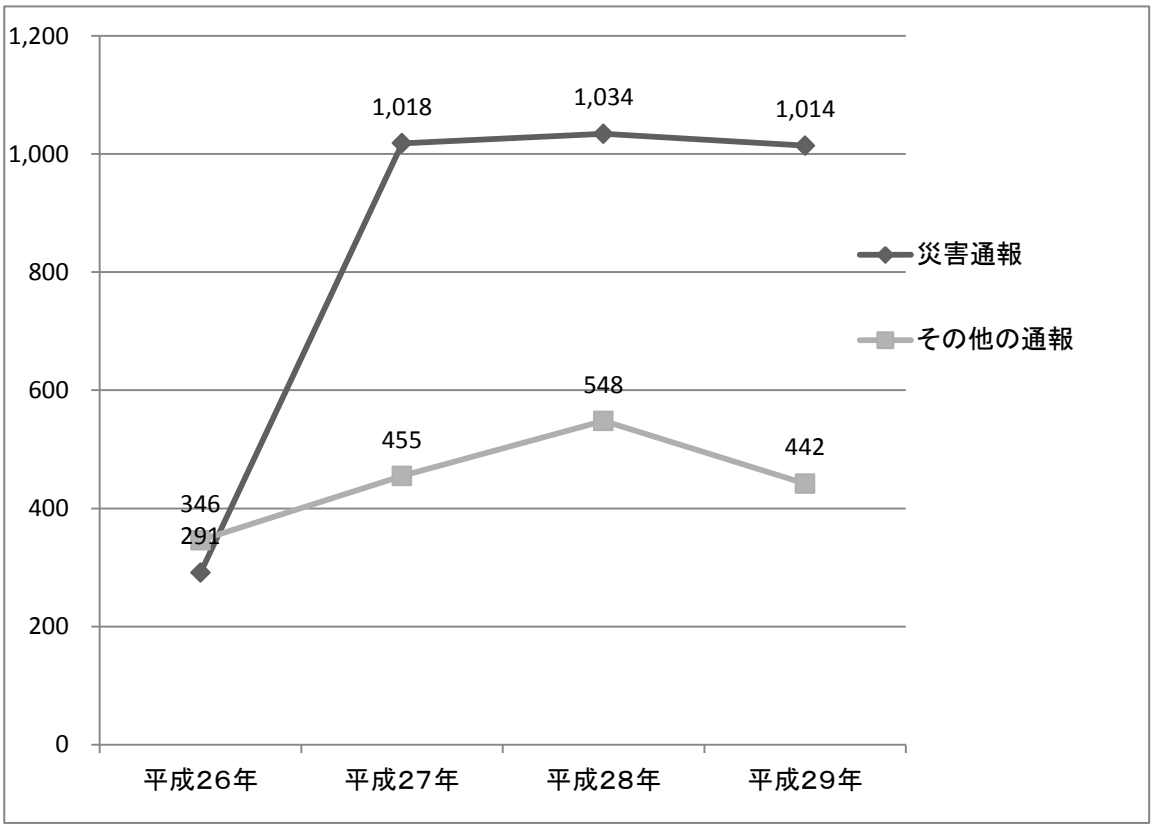
※高機能消防指令システム運用開始からのデータです。（平成26年9月以降）
※「試験」「訓練」「その他」を除きます。

◇年別通報受信状況

		平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	計
災害通報	火災通報	16	3	7	21	47
	救急救助通報	273	1,014	1,015	991	3,293
	その他災害通報	2	1	12	2	17
災害通報小計		291	1,018	1,034	1,014	3,357
災害通報以外の通報	訓練	47	151	138	149	485
	試験	235	198	286	180	899
	いたずら	2	4	3	1	10
	間違い	25	40	49	41	155
	問合わせ	37	62	72	71	242
その他の通報小計		346	455	548	442	1,791
統　　計		637	1,473	1,582	1,456	5,148

※高機能消防指令システム運用開始からのデータです。（平成26年9月以降）

※「その他災害通報」は、火災・救急救助以外の災害通報となります。



予　防

写真：弥陀ヶ原湿地

平成２４年７月に、世界的に貴重な湿地を保全する「ラムサール条約」に登録され、日本国内で最も標高の高い所にある登録地となりました

◇防火対象物状況

（平成29年1月1日～平成29年12月31日）

用途別			消防用設備等必要対象物	防火管理者必要対象物
(1)	イ	劇場、映画館、演芸場又は観覧場		
	ロ	公会堂又は集会場	19	15
(2)	イ	キャバレー、カフェー、ナイトクラブ等	1	1
	ロ	遊技場又はダンスホール		
	ハ	性風俗関連特殊営業を営む店舗等		
	ニ	カラオケボックス等		
(3)	イ	待合、料理店等	1	1
	ロ	飲食店	17	15
(4)		百貨店、マーケットその他の物品販売業を営む店舗又は展示場	37	17
(5)	イ	旅館、ホテル、宿泊所等	33	28
	ロ	寄宿舎、下宿又は共同住宅	39	4
(6)	イ	病院、診療所、助産所	8	2
	ロ	特別養護老人ホーム、救護施設、老人短期入所施設 乳児院、障害児入所施設、介護老人保健施設等 障害者支援施設等	18	15
	ハ	老人デイサービスセンター、更生施設、軽費老人ホーム 老人福祉センター、保育所、児童養護施設等、身体障害者福祉センター	23	16
	ニ	幼稚園又は特別支援学校		
(7)		小学校、中学校、高等学校、大学、高等専門学校等	17	10
(8)		図書館、博物館、美術館等	7	6
(9)	イ	公衆浴場のうち蒸気浴場、熱気浴場	1	1
	ロ	イに掲げる公衆浴場以外の公衆浴場		
(10)		車両の停車場又は船舶若しくは航空機の発着場	5	5
(11)		神社、寺院、教会等	8	
(12)	イ	工場又は作業場	176	12
	ロ	映画スタジオ又はテレビスタジオ		
(13)	イ	自動車車庫又は駐車場	16	
	ロ	飛行機又は回転翼航空機の格納庫		
(14)		倉庫	94	
(15)		前各項に該当しない事業場	115	18
(16)	イ	特定防火対象物が存する複合用途防火対象物	16	14
	ロ	上記以外の複合用途防火対象物	6	3
(16の2)		地下街		
(16の3)		地階で連続して設けられた地下道に面して設けられたものと地下道とを合わせた物		
(17)		重要文化財、重要美術品建造物等	5	1
(18)		延長≧50mのアーケード		
(19)		市町村長が指定する山林		
(20)		総務省令(規5-10)で定める舟車		
計			662	184

◇立入検査実施状況

（平成29年1月1日～平成29年12月31日）

用途別			実施件数	改善指示件数	改善計画提出件数	改善済件数
(1)	イ	劇場、映画館、演芸場又は観覧場				
	ロ	公会堂又は集会場	10	6	6	2
(2)	イ	キャバレー、カフェー、ナイトクラブの類				
	ロ	遊技場又はダンスホール				
	ハ	性風俗関連特殊営業店舗等				
	ニ	カラオケボックス等				
(3)	イ	待合、料理店等	1	1	1	
	ロ	飲食店	10	6	2	
(4)		百貨店、マーケットその他の物品販売業を営む店舗又は展示場	16	10	4	
(5)	イ	旅館、ホテル、宿泊所等	23	7	3	1
	ロ	寄宿舎、下宿又は共同住宅	6			
(6)	イ	病院、診療所又は助産所	5			
	ロ	特別養護老人ホーム、救護施設、老人短期入所施設 乳児院、障害児入所施設、介護老人保健施設等 障害者支援施設等	20	1	1	
	ハ	老人デイサービスセンター、更生施設、軽費老人ホーム 老人福祉センター、保育所、児童養護施設等、身体障害者福祉センター	11	1	1	
	ニ	幼稚園、特別支援学校				
(7)		小学校、中学校、高等学校、大学、高等専門学校等	8	2	2	
(8)		図書館、博物館、美術館の類	1	1		
(9)	イ	公衆浴場のうち蒸気浴場、熱気浴場	1			
	ロ	イに掲げる公衆浴場以外の公衆浴場				
(10)		車両の停車場又は船舶若しくは航空機の発着場	5			
(11)		神社、寺院、教会等	1			
(12)	イ	工場又は作業場	55	16	9	2
	ロ	映画スタジオ又はテレビスタジオ				
(13)	イ	自動車車庫又は駐車場	5	1	1	
	ロ	飛行機又は回転翼航空機の格納庫				
(14)		倉庫	15	2	1	2
(15)		前各項に該当しない事業場	33	5	4	1
(16)	イ	特定防火対象物が存する複合用途防火対象物	10	2	2	
	ロ	上記以外の複合用途防火対象物	3		1	
(16の2)		地下街				
(16の3)		地階で連続して設けられた地下道に面して設けられたものと地下道とを合わせた物				
(17)		重要文化財、重要美術品建造物等	2			
(18)		延長≧50mのアーケード				
(19)		市町村長が指定する山林				
(20)		総務省令(規5-10)で定める舟車				
計			241	61	38	8

※ 改善済件数は改善計画書を提出した後に改善された件数です。

※ 改善計画提出件数、改善済み件数は前年から継続の改善指示件数を含みます。

◇用途別建築同意状況

（平成29年1月1日～平成29年12月31日）

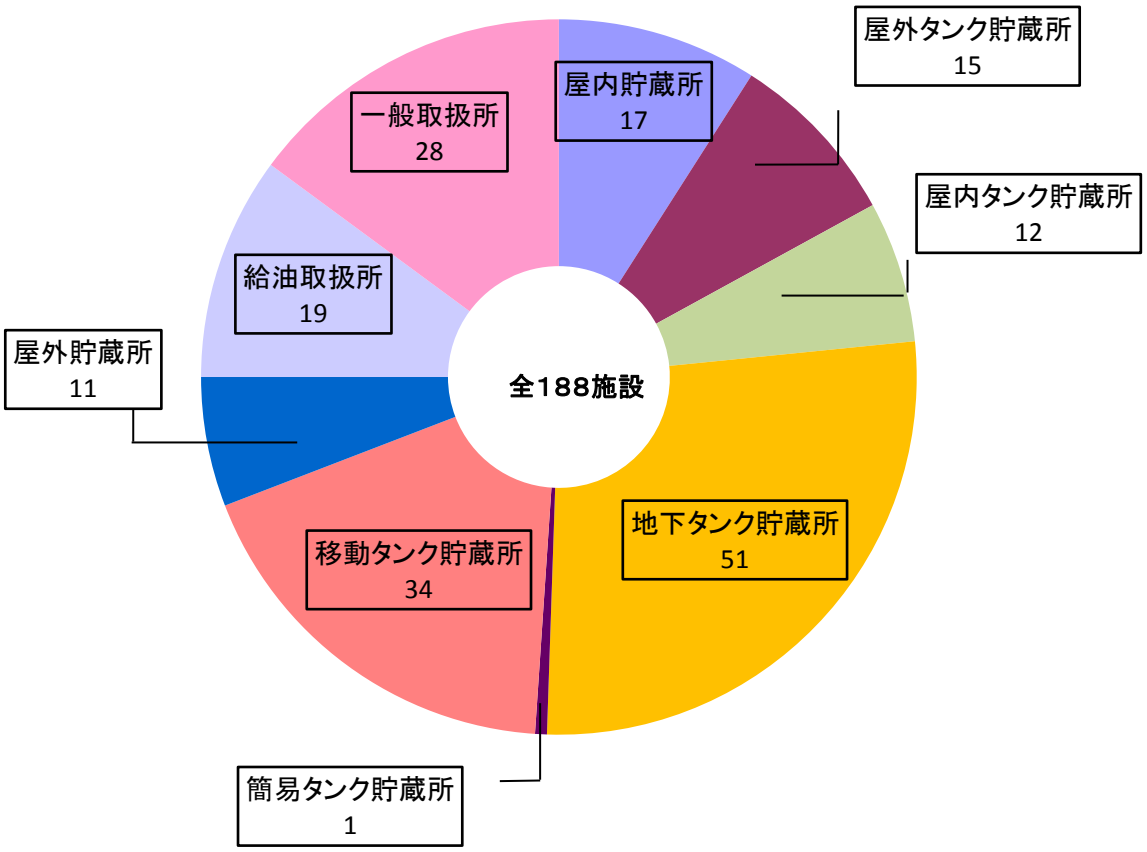
用途別			
(1)	イ	劇場、映画館、演芸場又は観覧場	1
	ロ	公会堂又は集会場	
(2)	イ	キャバレー、カフェー、ナイトクラブ等	
	ロ	遊技場又はダンスホール	
	ハ	性風俗関連特殊営業を営む店舗等	
	ニ	カラオケボックス等	
(3)	イ	待合、料理店等	
	ロ	飲食店	
(4)		百貨店、マーケットその他の物品販売業を営む店舗又は展示場	3
(5)	イ	旅館、ホテル、宿泊所等	1
	ロ	寄宿舎、下宿又は共同住宅	2
(6)	イ	病院、診療所、助産所	1
	ロ	特別養護老人ホーム、救護施設、老人短期入所施設 乳児院、障害児入所施設、介護老人保健施設等 障害者支援施設等	1
	ハ	老人デイサービスセンター、更生施設、軽費老人ホーム 老人福祉センター、保育所、児童養護施設等、身体障害者福祉センター	1
	ニ	幼稚園又は特別支援学校	
(7)		小学校、中学校、高等学校、大学、高等専門学校等	
(8)		図書館、博物館、美術館等	
(9)	イ	公衆浴場のうち蒸気浴場、熱気浴場	
	ロ	イに掲げる公衆浴場以外の公衆浴場	
(10)		車両の停車場又は船舶若しくは航空機の発着場	
(11)		神社、寺院、教会等	
(12)	イ	工場又は作業場	6
	ロ	映画スタジオ又はテレビスタジオ	
(13)	イ	自動車車庫又は駐車場	
	ロ	飛行機又は回転翼航空機の格納庫	
(14)		倉庫	8
(15)		前各項に該当しない事業場	10
(16)	イ	特定防火対象物が存する複合用途防火対象物	
	ロ	上記以外の複合用途防火対象物	
(16の2)		地下街	
(16の3)		地階で連続して設けられた地下道に面して設けられたものと 地下道とを合わせた物	
(17)		重要文化財、重要美術品建造物等	
(18)		延長≧50mのアーケード	
(19)		市町村長が指定する山林	
(20)		総務省令(規5-10)で定める舟車	
		専用住宅(車庫含む)	81
		その他	4
計			119

安　　全

写真：関西電力黒部ダム

１９５６年（昭和３１年）に着工し、１７１人の殉職者と７年の歳月をかけて１９６３年（昭和３８年）に完成しました　　堤高は１８６ｍで５０階建てビルに相当し、日本で一番の高さを誇ります

◇危険物施設数



◇火災予防条例による届出状況

種別／年	発電設備設置届	変電設備設置届	蓄電設備設置届	ボイラー設備設置届	乾燥設備設置届	給湯湯沸設備設置届	炉・厨房設備設置届	少量危険物貯蔵取扱届	指定可燃物貯蔵取扱届
平成29年	1	12	3	3	0	0	0	10	0
平成28年	1	1	0	2	1	3	0	6	0
平成27年	2	16	0	6	0	2	0	6	3
平成26年	1	8	0	5	0	0	0	9	6
平成25年	4	12	4	2	0	2	1	4	4

◇危険物製造所等倍数別・類別状況

（平成29年12月31日現在）

製造所等の別		貯蔵所								取扱所				合計
		屋内	屋外タンク	屋内タンク	地下タンク	簡易タンク	移動タンク	屋外	小計	給油	販売	一般	小計	合計
倍数別	5倍以下	6	5	3	32	1	32	6	85	3		14	17	102
	5倍を超え10倍 以下	6	2	6	10				24	1		10	11	35
	10倍を超え50倍 以下	4	4	3	8		1	5	25	5		4	9	34
	50倍を超え100倍 以下	1	4		1		1		7	4			4	11
	100倍を超え150倍 以下									3			3	3
	150倍を超え200倍 以下													
	200倍を超え1000倍 以下									3			3	3
	1000倍を超えるもの													
	合計	17	15	12	51	1	34	11	141	19		28	47	188
類別	第1類													
	第2類													
	第3類													
	第4類	16	15	12	51	1	32	11	138	19		27	46	184
	第5類													
	第6類						2		2					2
	混在	1							1			1	1	2
	合計	17	15	12	51	1	34	11	141	19		28	47	188

◇危険物製造所等の申請処理数

（平成29年中）（単位:件）

区分＼製造所等の別		貯蔵所 屋内	屋外タンク	屋内タンク	地下タンク	簡易タンク	移動タンク	屋外	取扱所 給油	販売	一般	合計	前年
許可	設置						1					1	6
	変更								1			1	7
完成検査	設置										1	1	5
	変更						1		1			2	5
完成検査前検査	水張										3	3	
	水圧												
承認申請	仮使用								1			1	2
	仮貯蔵・取扱い												1
再交付申請													
譲渡引渡届							1				1	2	3
品名数量変更届		1					1				1	3	5
廃止届				1	1		1					3	2

火　災

写真：称名滝

立山連峰の水を集め、弥陀ヶ原台地をＶ字状にえぐる落差日本一の大瀑布です（落差 350m）

４段構成の段瀑で日本の滝百選にも選ばれています

火　災　概　況

平成29年における火災発生件数は10件であり、前年に比べ6件増加しています。
火災種別では建物火災6件、車両火災3件、その他火災が1件となり、損害額は29，126千円で前年に比べ6，670千円増加しています。建物火災による焼損面積は334㎡で、焼損表面積は38㎡となっています。火災による焼死者は1名、負傷者は2名となっています。

◇平成29年火災発生状況総括表

区分＼件数		1	2	3	4	5
火災種別		建物	建物	車両	その他	建物
火災月日		2月3日	2月12日	2月16日	3月17日	7月7日
出火時刻（推定）		15:00	0:20	13:20	12:45	5:30
天候		晴	雪	晴	曇り	曇り
湿度（%）		54.9	98.4	46.8	53.6	97.5
風向		南南西	南西	西	北東	南南西
風速（m／s）		2.0	2.9	0.9	2.0	0.6
気温（℃）		7.2	−0.4	13.2	8.9	19.3
出火地区		立山	利田	釜ヶ渕	釜ヶ渕	立山
出火原因（推定含む）		調査中	電気機器の取扱不注意	車両機関内配線	ガス溶断機取扱不注意	ライターの取扱不注意
焼損面積（㎡）		50	115			3 （表）2
焼損棟数	全焼					
	半焼	1	1			
	部分焼					1
	ぼや					
罹災世帯数	全損					
	半損		1			
	小損					1
罹災人員			6			
死傷者	死者					
	傷者					
損害額（千円）	建物	3,195	20,902			60
	収容物	909	744			19
	その他			221	59	
	計	4,104	21,646	221	59	79
住宅火災警報器設置状況		―	有	―	―	―

（表）‥表面積

区分＼件数		6	7	8	9	10
火災種別		建物	建物	車両	車両	建物
火災月日		7月25日	8月6日	10月21日	11月16日	11月24日
出火時刻（推定）		2:00	2:00	19:50	9:00	17:30
天候 湿度（%） 風向 風速（m/s） 気温（℃）		雨 98.3 南南西 1.1 24.8	晴 97.2 南南西 0.5 26.2	曇り 97.4 南南西 1.1 17.2	雨 97.4 南南西 3.0 4.0	雨 96.9 南 4.3 4.1
出火地区		釜ヶ渕	立山	立山	利田	下段
出火原因（推定含む）		ライターの取扱不注意	調査中	車両機関内配線	車両衝突発火	電気機器配線の接触不良
焼損面積（㎡）			166 （表）35			（表）1
焼損棟数	全焼		2			
	半焼					
	部分焼		4			
	ぼや	1				1
出火原	全損		1			
	半損					
	小損	1	2			1
罹災人員		1	5			1
死傷者	死者		1			
	傷者	1			1	
損害額（千円）	建物		2,361			30
	収容物		559			10
	その他			40	17	
	計	0	2,920	40	17	40
住宅火災警報器設置状況		無	無	―	―	無

（表）・・表面積

◇月別火災発生状況

内訳 / 月別	出火件数					焼損棟数					焼損面積（㎡）	損害額（千円）
	計	建物	林野	車両	その他	計	全焼	半焼	部分焼	ぼや		
1												
2	3	2		1		2		2			165	25,971
3	1				1							59
4												
5												
6												
7	2	2				2			1	1	3,(表)2	79
8	1	1				6	2		4		166,(表)35	2,920
9												
10	1			1								40
11	2	1		1		1				1	(表)1	57
12												
合計	10	6		3	1	11	2	2	5	2	334,(表)38	29,126

(表)・・表面積

◇過去10年間の地区別件数

年 / 地区	平成20	平成21	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26	平成27	平成28	平成29	合計
五百石	2		1	1		3	1	1			9
高野	1	1				3					5
上段		1			1		1		1		4
東谷	1										1
立山		1	2	1	2				2	4	12
釜ヶ渕	2	1				1	1			3	8
下段	1	1		1						1	4
大森		1		2	1			1	1		6
利田			2	1			1			2	6
新川	2	2	1	1				2			8
合計	9	8	6	7	4	7	4	4	4	10	63

◇気象別火災発生状況

天 候	件 数
晴	3
曇	4
雨	2
雪	1
不明	
合計	10

湿 度(%)	件 数
0～19	
20～29	
30～39	
40～49	1
50～59	2
60～69	
70～79	
80～89	
90～	7
不 明	
合 計	10

風速(m/s)	件 数
0.0～ 1.9	5
2.0～ 3.9	4
4.0～ 5.9	1
6.0～ 7.9	
8.0～ 9.9	
10.0～11.9	
12.0～13.9	
14.0～	
合 計	10

◇火元建物用途別の火災状況

損害状況 / 用途別	出火件数 (件)	焼損面積 (㎡)	焼損表面積 (㎡)	損害額 (千円)
建 物	6	334	38	28,789
車 両	3			278
そ の 他	1			59
合 計	10	334	38	29,126

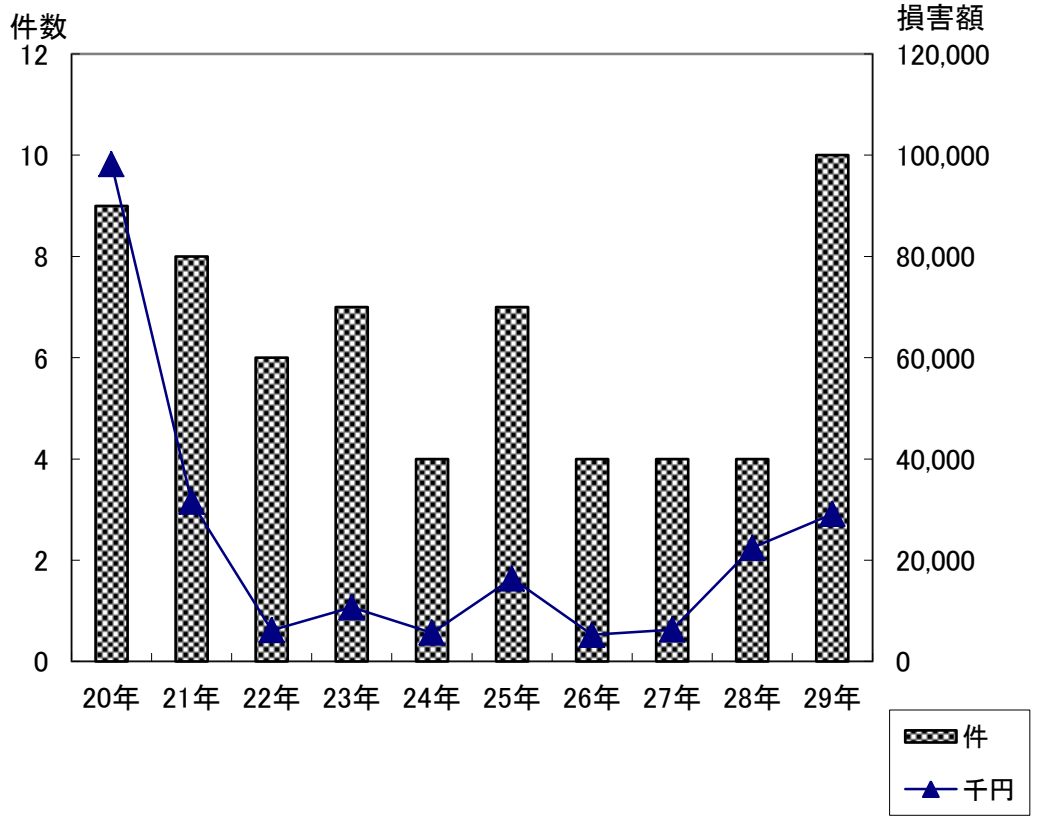
◇出火時刻別火災発生状況

区分／時刻	出火件数					焼損棟数					焼損面積			死傷者		損害額
	計	建物	林野	車両	その他	計	全焼	半焼	部分焼	ぼや	建物（㎡）		林野 (a)	焼死者	傷者	（千円）
											床面積	表面積				
0～ 1	1	1				1		1			115					21,646
1～ 2						1				1						
2～ 3	2	2				6	2		4		166	35		1	1	2,920
3～ 4																
4～ 5																
5～ 6	1	1				1			1		3	2				79
6～ 7																
7～ 8																
8～ 9																
9～10	1			1											1	17
10～11																
11～12																
12～13	1				1											59
13～14	1			1												221
14～15																
15～16	1	1				1		1			50					4,104
16～17																
17～18	1	1				1				1		1				40
18～19																
19～20	1			1												40
20～21																
21～22																
22～23																
23～24																
合 計	10	6		3	1	11	2	2	5	2	334	38		1	2	29,126

◇過去10年間の火災発生状況

区分／年	件　数	焼　損　面　積				損　害　額(千円)
		建　物(㎡)	表面積	林野・その他	車両	
平成　20	9	1,584	121	8a	1台	98,238
平成　21	8	721	20			31,524
平成　22	6	158	58			6,170
平成　23	7	284	19		1台	10,680
平成　24	4	64	16		1台	5,664
平成　25	7	899	2			16,381
平成　26	4	159		12a	5台	5,261
平成　27	4	264			2台	6,293
平成　28	4	801		41a		22,456
平成　29	10	334	38		3台	29,126
計	63	5,268	274	61a	13台	231,793

過去10年間の火災発生件数と損害額



○過去10年間の原因別出火件数

年別 / 原因別	平成20	平成21	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26	平成27	平成28	平成29	合計
たばこ				1		1			1		3
ガス燃焼機器			1	1							2
ストーブ(石油)		1		1			1	1			4
ボイラー	1		1						1		3
ライター										1	1
飛び火				1		1				1	2
取扱い不注意(危険物)		1								1	2
電気機器類				1						1	2
電灯電気等の配線	2	1			1	1				1	6
野火	1	1				1	1		1		5
スプレー缶爆発	1		2					1			2
車両機関内配線	1									2	3
車両衝突								1		1	2
車両の故障								1			1
放火(疑い含む)	1	2	2		1	1					7
不明・調査中	2			1	1	2				2	8
自然発火		1									1
焼身自殺									1		1
機器取扱不注意										1	1
落雷		1			1		1				3
製造機器			1				1				2
乾燥機			1	1							2
合計	9	8	6	7	4	7	4	4	4	10	63

※出火原因については推定を含みます。

救急・救助

写真：立山の雷鳥

１９５５年（昭和３０年）に国の天然記念物に指定されました

室堂平周辺には、約280羽（平成２３年調べ）の雷鳥が生息しています

救　急　概　況

平成29年中の救急出動件数（立山アルペンルート、北陸自動車道を含む）は、1,129件で前年の1,162件に対し33件の減少となり、搬送人員は、1,050人(男性515人,女性535人）で前年の1,076人に比べ26人の減少となりました。

出動事故種別では、急病が675件（59．8%）であり、次いで一般負傷199件（17．6%）交通86件（7．6%）転院搬送85件（7．5%）となりました。

立山アルペンルートの出動件数は、87件で前年の86件に対し、1件の増加となりました。

北陸自動車道の出動件数は、5件で前年の1件に対し、4件の増加となりました。

○事故種別出動件数・搬送人員状況

事故種別 / 項目	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他				計
											転院	医師	資機材搬送	その他	
出動件数	1		1	86	21	9	199	2	13	675	85	1		36	1,129
搬送人員	1			86	21	9	184	2	7	645	78			17	1,050

○月別・事故種別救急活動状況

月＼事故種別		火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他				計
												転院	医師	資機材	その他	
1	出動件数				5	1		15			80	5				106
	搬送人員				4	1		15			80	5				105
2	出動件数				6	1	1	13			41	7			2	71
	搬送人員				7	1	1	11			39	7				66
3	出動件数				6	1	1	16		1	54	8			3	90
	搬送人員				7	1	1	14			50	8			3	84
4	出動件数				7	1		17		1	50	4			3	83
	搬送人員				6	1		16		1	50	4				78
5	出動件数				7	3	1	19		2	48	7				87
	搬送人員				6	3	1	18		1	48	7				84
6	出動件数				7		1	8		2	54	10			2	84
	搬送人員				7		1	8		2	52	10			1	81
7	出動件数	1			7	2	2	23	1	1	55	10			3	105
	搬送人員	1			8	2	2	22	1	1	52	7			2	98
8	出動件数			1	10	6	1	21		2	81	16			3	141
	搬送人員				11	6	1	18			71	12				119
9	出動件数				7	2		20	1		61	3			4	98
	搬送人員				9	2		17	1		59	3			1	92
10	出動件数				6			14		1	59	6			7	93
	搬送人員				5			15			57	6			6	89
11	出動件数				8	2		12		1	44	2	1		7	77
	搬送人員				7	2		11		1	40	2			3	66
12	出動件数				10	2	2	21		2	48	7			2	94
	搬送人員				9	2	2	19		1	47	7			1	88
計	出動件数	1		1	86	21	9	199	2	13	675	85	1		36	1,129
	搬送人員	1			86	21	9	184	2	7	645	78			17	1,050

○時間別・事故種別救急活動状況

区分＼事故種別		火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他				計
												転院	医師	資機材	その他	
0～2	出動件数							6	1	2	26	3			1	39
	搬送人員							6	1	2	25	2				36
2～4	出動件数				1			2			23				2	28
	搬送人員				1			2			23				2	28
4～6	出動件数				1			6			36				1	44
	搬送人員				1			5			35				1	42
6～8	出動件数				6			27		2	62	1			5	103
	搬送人員				7			26		1	55	1			4	94
8～10	出動件数	1			16	1		30		1	88	14			3	154
	搬送人員	1			16	1		30		1	86	13			3	151
10～12	出動件数				13	5	2	11		2	62	10			5	110
	搬送人員				14	5	2	10		2	60	10			1	104
12～14	出動件数				8	3	4	28			57	17	1		2	120
	搬送人員				7	3	4	24			55	14			2	109
14～16	出動件数			1	15	8	2	24	1	3	61	13			8	136
	搬送人員				14	8	2	22	1		60	12			1	120
16～18	出動件数				8	4		22		1	66	17			2	120
	搬送人員				9	4		22			63	16			1	115
18～20	出動件数				12			27		1	84	9			4	137
	搬送人員				12			24			81	8			1	126
20～22	出動件数				3		1	9		1	73				2	89
	搬送人員				2		1	8		1	68				1	81
22～24	出動件数				3			7			37	1			1	49
	搬送人員				3			5			34	1			1	44
計	出動件数	1		1	86	21	9	199	2	13	675	85	1		36	1,129
	搬送人員	1			86	21	9	184	2	7	645	77			18	1,050

○曜日別・事故種別救急活動状況

区分＼事故種別		火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他				計
												転院	医師	資機材	その他	
月	出動件数				12	2	2	28		1	100	15			3	163
	搬送人員				14	2	2	25			97	13			1	154
火	出動件数	1		1	5	3		18	1	2	108	10			3	152
	搬送人員	1			5	3		17	1	1	105	10			1	144
水	出動件数				14	4	1	31		4	89	15			7	165
	搬送人員				13	4	1	28		3	86	15			2	152
木	出動件数				9	3		23		2	96	10	1		6	150
	搬送人員				10	3		22		1	87	9			4	136
金	出動件数				9	2		30		2	94	23			5	165
	搬送人員				12	2		29		1	90	23			3	160
土	出動件数				20	5	2	31	1	2	83	6			6	156
	搬送人員				19	5	2	29	1	1	79	5			3	144
日	出動件数				17	2	4	38			105	6			6	178
	搬送人員				13	2	4	34			101	3			3	160
計	出動件数	1		1	86	21	9	199	2	13	675	85	1		36	1,129
	搬送人員	1			86	21	9	184	2	7	645	78			17	1,050

○現場到着所要時間・事故種別出動件数

（単位：件）

事故種別 / 所要時間	急病	交通	一般負傷	その他	計
3分未満	42	2	15	18	77
3分～5分	140	13	46	60	259
5分～10分	371	54	86	56	567
10分～20分	96	13	32	20	161
20分以上	26	4	20	15	65
計	675	86	199	169	1,129
最短時間（分）	0	2	0	0	0
最長時間（分）	87	68	63	71	87
平均時間（分）	8.4	9.1	10.2	8.9	8.8

※「現場到着所要時間」とは、入電から現場到着した時間を表します。

○医療機関等収容所要時間・事故種別搬送人員

（単位：人）

事故種別 / 所要時間	急病	交通	一般負傷	その他	計
10分未満					
うち管外					
10分以上20分未満	15	2	3	1	21
うち管外	5	1		1	7
20分以上30分未満	104	16	25	39	184
うち管外	83	6	18	39	146
30分以上60分未満	492	65	130	83	770
うち管外	478	63	124	82	747
60分以上120分未満	30	3	20	12	65
うち管外	29	3	19	10	61
120分以上	4		6		10
うち管外	3		6		9
計	645	86	184	135	1,050
うち管外	598	73	167	132	970
最短時間（分）	12	19	18	15	12
最長時間（分）	204	116	372	105	372
平均時間（分）	39.7	39.2	47.6	38.7	40.4

※ この表中の「管外」とは、収容医療機関が立山町以外の病院へ搬送したことを表します。

※「医療機関等収容所要時間」とは、入電から医療機関へ収容した時間または、ヘリポートまで搬送した時間を表します。

○年齢区分別・傷病程度別搬送人員

区分＼事故種別	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	転院搬送	その他	計
新生児							1						1
乳幼児							7			26	1		34
少年				5		7	3		1	9	1		26
成人				47	16	1	35	1	5	147	18	6	276
高齢者	1			34	5	1	138	1	1	463	58	11	713
計	1			86	21	9	184	2	7	645	78	17	1,050
死亡				1			1		1	4		8	15
重症				1	1		6			42	6	4	60
中等症	1			15	5	4	75		3	243	46	2	394
軽症				69	14	5	99	2	3	355	26	2	575
その他					1		3			1		1	6
計	1			86	21	9	184	2	7	645	78	17	1,050

新生児…生後28日未満の者
乳幼児…生後29日以上満7歳未満の者
少　年…満7歳以上満18歳未満の者
成　人…満18歳以上満65歳未満の者
高齢者…満65歳以上の者

死　亡…初診時において、死亡が確認されたもの
重　症…傷病の程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの
中等症…傷病の程度が入院を必要とするもので重症に至らないもの
軽　症…傷病の程度が入院を必要としないもの
その他…医師の診断がないもの及び「その他の場所」へ搬送したもの
（防災ヘリ搬送等）

○居住地別・事故種別搬送人員

区分＼事故種別	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	転院搬送	その他	計
管内	1			51	7	4	142	1	5	564	66	14	855
管外				35	14	5	37	1	2	79	11	3	187
その他							5			2	1		8
計	1			86	21	9	184	2	7	645	78	17	1,050

＊管　内…立山町に住所を有する者
＊管　外…管内以外の国内に住所を有している者
＊その他…外国人旅行者と住所不明者

○収容医療機関別搬送人員

医療機関別＼事故種別			急病		交通		一般負傷		その他		計	
				うち管外		うち管外		うち管外		うち管外		うち管外
救急告示医療機関	国立		11	11			3	3	3	3	17	17
	公立		383	383	54	54	110	110	90	90	637	637
	公的		194	194	18	18	52	52	38	38	302	302
	私的	病院	47	1	13		14		2	1	76	2
		診療所										
	小計		635	589	85	72	179	165	133	132	1,032	958
その他の医療機関	国立											
	公立		2	2							2	2
	公的		5	5	1	1	1	1			7	7
	私的	病院	1	1							1	1
		診療所	1	1			1	1			2	2
	小計		9	9	1	1	2	2			12	12
合計	国立		11	11			3	3	3	3	17	17
	公立		385	385	54	54	110	110	90	90	639	639
	公的		199	199	19	19	53	53	38	38	309	309
	私的	病院	48	2	13		14		2	1	77	3
		診療所	1	1			1	1			2	2
計			644	598	86	73	181	167	133	132	1,044	970

※傷病者をヘリポートまで搬送したものは、上記区分で「急病」1人「一般負傷」3人「その他」2人の合計6人で、上表欄には表記されていません。

○過去10年間の救急状況

区分＼年	平成20	平成21	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26	平成27	平成28	平成29
出動件数	961	981	1095	1110	1,136	1098	1024	1,089	1,162	1,129
搬送人員	901	900	976	1035	1043	1007	948	979	1,076	1,050

立山アルペンルート救急状況

昭和46年7月から立山アルペンルート救急業務開始

出 動 件 数　　87件　（前年出動件数 86件）

搬 送 人 員　　60人　（前年搬送人員 62人）

○事故種別出動件数・搬送人員（性別・傷病程度別）

区分／種別	件数	搬送人員	性別		傷病程度別				
			男	女	死亡	重症	中等	軽症	その他
急病	37	26	14	12		1	3	21	1
一般負傷	28	22	10	12			6	13	3
転院搬送	16	9	5	4			4	5	
その他	6	3	3					2	1
計	87	60	32	28		1	13	41	5

※傷病程度 「その他」は、傷病者をヘリポートまで搬送したことを意味する。

○月別・事故種別搬送人員

区分／月	急病		一般負傷		転院搬送		その他		計		合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
4月	1	3	1	2		1	1		3	6	9
5月	2	1	1	2	1				4	3	7
6月	2			1					2	1	3
7月			1		1	2			2	2	4
8月	4	4	3	3	3	1			10	8	18
9月	2	1	1	3			1		4	4	8
10月	3	2	3				1		7	2	9
11月		1		1						2	2
計	14	12	10	12	5	4	3		32	28	60

※立山アルペンルート開通期間は、毎年4月中旬から11月末までとなっています。

○居住地別搬送人員

区分／種別	男	女	計
立山町内	2		2
富山県内	8	4	12
富山県外	18	20	38
国外	4	4	8
計	32	28	60

○過去10年間の救急状況

年／区分	平成20	平成21	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26	平成27	平成28	平成29
出動件数	58	53	59	62	71	51	53	89	86	87
搬送人員	42	52	38	41	46	35	38	53	62	60

富山県ドクターヘリ要請状況

平成27年8月24日から運行開始。基地病院である富山県立中央病院の屋上ヘリポートに待機し重篤な傷病者に対し早期に医師や看護師が処置を行い、救命率向上を図ることを目的に富山県ドクターヘリが導入されました。

要 請 件 数　85件（前年要請件数 92件）

搬 送 人 員　74人（前年搬送件数 85人）

○事故種別出動件数・搬送人員

単位：件、人

区分／種別	件数	搬送人員	性別		傷病程度別				
			男	女	死亡	重症	中等症	軽症	その他
交通	9	7	4	3		1	5	1	
労働災害	4	4	4			1	3		
運動競技	1	1		1			1		
一般負傷	18	17	10	7		3	9	5	
自損	3	2		2			2		
急病	40	34	19	15		8	18	8	
転院搬送	5	5	2	3		1	1	3	
その他	5	4	3	1		3	1		
計	85	74	42	32		17	40	17	

※その他には、富山市消防局管轄事案の管内ランデブーポイント使用による支援出動及び覚知要請後のドクターヘリフライト前キャンセルを含みます。
※ランデブーポイントとは・・・傷病者を乗せた救急車とドクターヘリが合流するため、事前に設定した場所を言います。

○月別・事故種別搬送人員

単位：人

区分／月	急病		交通		一般負傷		その他		計		合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
1月	1				1				2		2
2月	1		1	1		1			2	2	4
3月	2	1					2		4	1	5
4月		6	1			1		1	1	8	9
5月	2				1	1	2	1	5	2	7
6月	5				1	1		1	6	2	8
7月	1	3					2	2	3	5	8
8月	2	3	1		2	1	1		6	4	10
9月	3	1	1			2	1		5	3	8
10月	1			1	2				3	1	4
11月		1		1	2		1	1	3	3	6
12月	1				1			1	2	1	3
計	19	15	4	3	10	7	9	7	42	32	74

○居住地別搬送人員

単位：人

区分／種別	男	女	計
管内	26	17	43
管外	16	15	31
計	42	32	74

○ランデブーポイント数

（平成29年12月31日現在）

富山県全体	582箇所
うち立山町	32箇所

北 陸 自 動 車 道 救 急 状 況

昭和55年12月11日に日本道路公団と「救急業務に関する委託契約」を締結する。
平成17年10月1日、日本道路公団民営化。
北陸自動車道は、中日本高速道路株式会社が経営引きつぐ。

出動件数　5件(前年出動件数　1件)

搬送人員　2人(前年搬送人員　3人)

○事故種別出動件数・搬送人員(性別・傷病程度別)

区分 / 種別	件数	搬送人員	性別		傷病程度別			
			男	女	死亡	重症	中等	軽症
交通	5	2	1	1			2	
急病								
その他								
計	5	2	1	1			2	

○月別・事故種別搬送人員

区分 / 月	交通		急病		その他		計		合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	
1月	1						1		1
2月		1						1	1
3月									
4月									
5月									
6月									
7月									
8月									
9月									
10月									
11月									
12月									
計	1	1					1	1	2

○居住地別搬送人員

区分 / 種別	男	女	計
立山町内			
富山県内			
富山県外	1	1	2
計	1	1	2

○過去10年間の救急状況

区分 \ 年	平成20	平成21	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26	平成27	平成28	平成29
出動件数	3	1	1	4	3	4	3	3	1	5
搬送人員	3	1	2	3	3	5	2	3	3	2

富山市と立山町との消防相互応援協定

平成23年7月28日に富山市と「富山市と立山町との消防相互応援協定」を締結しました。

出動依頼件数　4件（前年依頼件数　1件）
搬送人員　　4人（前年搬送人員　1人）

○事故種別出動件数・搬送人員

区分／種別	件数	搬送人員	性別		傷病程度別				
			男	女	死亡	重症	中等症	軽症	その他
急病	2	2	2			1		1	
一般負傷	1	1	1				1		
交通	1	1	1			1			
計	4	4	4			2	1	1	

（参考）
平成29年

No	事故種別	内容	搬送隊	備考
1	急病	心肺停止	小見救急隊	立山町救急隊応援出動（連携）
2	急病	意識障害	立山町救急隊	小見救急隊応援出動（連携）
3	交通	頭部外傷	小見救急隊	立山町救急隊応援出動（連携）
4	一般負傷	蜂刺傷	立山町救急隊	小見救急隊応援出動（連携）

平成28年

No	事故種別	内容	搬送隊	備考
1	急病	意識消失	小見救急隊	

平成27年　なし

平成26年

No	事故種別	内容	搬送隊	備考
1	急病	心肺停止		不搬送
2	急病	腹痛	小見救急隊	
3	急病	心肺停止	小見救急隊	立山町救急隊応援出動（連携）

平成25年

No	事故種別	内容	搬送隊	備考
1	交通	心肺停止	立山町救急隊	小見救急隊応援出動（連携）

○過去5年間の救急状況

年／区分	平成25	平成26	平成27	平成28	平成29
出動件数	1	3	0	1	4
搬送人員	1	2	0	1	4

※「富山市と立山町との消防相互応援協定」とは、横江（立山地区）、千垣、芦峅寺、千寿ヶ原の地区で緊急性及び特殊性の高い救急事案について富山市（小見救急隊）が救急応援出動するものです。
※アルペンルートでの事故は協定の対象外となります。
※平成25年～28年の統計も参考として添付します。

救急隊員が行なった応急処置の状況

救急隊員が行なった心肺停止傷病者に対する応急処置の状況

処置項目＼事故種別	急 病	自損	自然災害	その他	計
心 肺 蘇 生 法	15	5	1	13	34
気 道 確 保	8	3		7	18
※うちラリンゲアルチューブ等	1			1	2
※うち気管挿管	7	3		6	16
※ 除 細 動					0
※ 静脈路確保（輸液）	5	1		5	11
※うち薬剤投与	4	1		5	10

※は救急救命士による特定行為。

心肺停止前の重度傷病者に対する2処置（静脈路確保及び輸液、血糖測定並びに低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与）の状況

処置項目＼事故種別	急 病	一般	交通	その他	計
※ 静脈路確保（輸液）	5	1			6
※ 血 糖 測 定	61	5	2	2	70
※うちブドウ糖投与	1				1

※平成27年7月1日から上記の処置を救急救命士が行なえるようになりました。

救　助・捜　索　概　況

平成29年中の救助･捜索出動総件数は30件で、前年の12件に比べ18件の増加となりました。
内4件は、捜索によるものです。

〇平成29年救助･捜索出動及び活動状況

区分＼月			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
救助件数			2	1	4	1	3	2		3	2	1	5	2	26
捜索件数				1							1	2			4
救助・捜索人員				1	4	1	3	1		2	3	3	4	1	23
事故種別出動件数	火災	建物													
		建物以外													
	交通事故		2	1	1		1	1		2		1	1	2	12
	水難事故				1					1			2		4
	風水害等自然災害														
	機械による事故												1		1
	ガス及び酸欠事故														
	爆発事故														
	建物等による事故				1										1
	その他の事故				1	1	2	1			2		1		8
	捜索			1							1	2			4
合計			2	2	4	1	3	2		3	3	3	5	2	30

◇過去3年間の救助･捜索出動及び活動状況

区分＼年	平成27年	平成28年	平成29年
救助件数	12件	8件	26件
捜索件数	4件	4件	4件
救助・捜索人員	11名	10名	23名

◇消防団山岳救助協力隊の現況

（平成29年4月1日現在）

名称	隊員数	結成年月日	分団名	備考
消防団山岳救助協力隊	14	平成２年５月１日	立山	芦峅寺12名、千寿ヶ原2名

◇女性防火クラブの現況

（平成29年4月1日現在）

名称	隊員数	結成年月日	地区	備考
立山町女性防火クラブ	24	平成28年４月１日	６地区	釜ヶ渕11名、高野5名、立山3名 下段2名、大森2名、五百石1名

◇幼年消防クラブの現況 （2クラブ）

（平成29年4月1日現在）

名称	クラブ員数	結成年月日	地区名	備考
高原保育園 幼年消防クラブ	27	昭和５７年　５月　１日	高野	
むつみ幼稚園 幼年消防クラブ	38	昭和５８年　５月　１日	五百石	
計	65			

◇少年消防クラブの現況 （7クラブ）

（平成29年4月1日現在）

名称	クラブ員数	結成年月日	地区名	備考
釜ヶ渕小学校 少年消防クラブ	27	昭和３６年　１月２５日	釜ヶ渕	
立山中央小学校 少年消防クラブ	184	昭和３６年　４月　７日	五百石	
日中上野小学校 少年消防クラブ	11	昭和３７年　７月　６日	上段	
立山北部小学校 少年消防クラブ	68	昭和３９年１０月　８日	新川	
高野小学校 少年消防クラブ	46	昭和４６年　６月１６日	高野	
利田小学校 少年消防クラブ	86	昭和４８年　２月１９日	利田	
立山小学校 少年消防クラブ	33	昭和５０年１２月　４日	立山	
計	455			

消　防　年　報

平成３０年１月発行

立　山　町　消　防　本　部

〒９３０－３２６５
富山県中新川郡立山町米沢３６
ＴＥＬ（０７６）４６３－０００５
ＦＡＸ（０７６）４６３－１６１０
Email　syoubou@town.tateyama.lg.jp